THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2012

19

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2012年度

2014　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2012

19

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2012年度

2014　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

2012年４月，埋蔵文化財調査センター（以下「センター」.）は関東の縄文時代研究者である松田光太郎准教授を新たなスタッフにお迎えして開所式を行い，同日第一回の運営委員会を開催して実質的な一歩を踏み出した.

2012年度センターが実施した調査は50件である（発掘調査６件，立会調査は44件）．発掘調査では，医学部（本荘地区）で二つの大きな調査を実施した．そのうちの一つ（医学部基礎研究棟Ｂ棟東側とりこわしにかかわる事前調査）では長さ36mにおよぶ近世初期の大溝が出た．以前の調査で出ていた溝とつながって本荘キャンパスの東を流れる二の井手用水路につながるようである.

もう一つの調査（国際先端医学研究拠点施設新営にかかわる事前調査）では，６世紀末から10世紀の建物跡を30軒検出した．柱の位置から復元された平安時代の建物の主軸は託麻郡の条里の方向と一致するので，この付近まで条里が及んでいたのだろう.

発掘調査と並んで重要なのが報告書の作成である．報告書の作成には発掘調査と同じくらいの労力と時間がかかる．この刊行をもって発掘調査はようやく終了し，その成果は地域の歴史の１頁となって社会に還元される．本年度は学長裁量経費により2003・2006・2011年度調査の報告書を刊行した．大学の配慮に感謝申し上げる.

ところで，調査成果の広報・普及活動もセンターにとって重要な業務である．2012年度は，既に刊行しているパンフレット「地下の文化財」（黒髪地区版）の中国語・英語版を作成した．Ａ３判の表裏カラー版で，これ１枚で学内の遺跡散歩ができるようになっている．学内の遺跡になじみの薄い留学生や外国からのゲストにも，これを手に熊本大学の足下の歴史を楽しんでもらいたいと思う．このシリーズは本荘地区やその他の地区についても順次作成してゆく計画である.

学内開発を前にした遺跡の小刻みな消滅は，考古学を専らにする者にとって心痛むことである．限られた条件で出来る限り質の高い調査をして，遺跡の価値を学内外に生かしてゆきたい.

今年も施設部をはじめとする関係部局にお世話になった．各位にあつく御礼を申し上げる.

2014年１月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2012年４月１日から2013年３月末日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡群黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），医学部保健学科構内（KHJ），京町台遺跡群教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡群薬学部構内（HJP）．

4．調査地点配置図および遺構図の座標は，世界測地系による．

5．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．

6．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

7．本書の執筆は，Ⅰ章，英文サマリー・ハングルサマリー，付篇および抄録を松田が，Ⅱ章を大坪・松田が行った．

8．本書の編集は松田が行った．

目　次

＜本文目次＞

第Ⅰ章　本年度の調査概要――――――――――――1
第Ⅱ章　調査の記録――――――――――――――7
Ⅱ－1　黒髪北地区――――――――――――――7
1.（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管補修他工事に伴う立会調査（1206）――――7
2.（黒髪北）防災管理システム取設工事に伴う立会調査（1218）――――――――7
3.（黒髪北）プール機械室冠水対策工事に伴う立会調査（1220）――――――――11
4.（黒髪北）教育学部本館植栽植替工事に伴う立会調査（1229）――――――――11
5.（黒髪北）教育学部北側擁壁改修工事に伴う立会調査（1230）――――――――12
6.（黒髪北）教育学部喫煙所設置工事に伴う立会調査（1236）――――――――13
Ⅱ－2　黒髪南地区――――――――――――――14
1.（黒髪南）事務局南側寄贈樹木植栽工事に伴う立会調査（1201）――――――――14
2.（黒髪南）理学部温室Ａとりこわし工事に伴う立会調査（1224）――――――――16
3.（黒髪南）理学部圃場倉庫新営工事に伴う立会調査（1228）――――――――17
4.（黒髪南他）理学部３号館南側実験廃棄物置場工事に伴う立会調査（1237）――――19
5.（黒髪南）電気自動車車庫新営工事に伴う立会調査（1238）――――――――19
6.（黒髪南）工学部駐輪場工事に伴う立会調査（1240）――――――――――――20
Ⅱ－3　本荘北地区――――――――――――――22
1.（本荘北）本荘北地区駐車場配管工事（新設）に伴う立会調査（1203）――――――22
2.（本荘北）樹木移植等工事に伴う立会調査（1204）――――――――――――24
3.（本荘北）水銀指定基準超過区域土壌掘削除去に伴う立会調査・発掘調査（1207）――25
4.（本荘北）立体駐車場支障配線替工事に伴う立会調査（1208）――――――――27
5.（医病）西病棟西側道路陥没復旧工事に伴う立会調査（1212）――――――――28
6.（本荘北）本荘北地区駐車場既設配管工事に伴う立会調査（1213）――――――――28
7.（本荘北）立体駐車場新営その他工事に伴う立会調査（1214）――――――――29
8.（医病）駐車場整備員控室改修機械設備工事に伴う立会調査（1217）――――――31
9.（医病）外来診療棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1222）――――――――31
10.（医病）西病棟西側地盤改良工事に伴う立会調査（1225）――――――――――32
11.（医病）外来診療棟新営電気設備工事に伴う立会調査・発掘調査（1226）――――33
12.（本荘北）立体駐車場新営その他工事（追加）に伴う立会調査（1227）――――――34
13.（医病）医学部駐輪場取設工事に伴う立会調査・発掘調査（1234）――――――35
14.（医病）構内ガス管緊急補修工事に伴う立会調査（1235）――――――――――37
15.（医病）構内ガス管緊急補修工事に伴う立会調査（1239）――――――――――38
16.（本荘北）看護師宿舎１階院内保育園改修機械設備工事に伴う立会調査（1244）――39
Ⅱ－4　本荘中地区――――――――――――――40
1.（本荘中）医学部基礎研究棟（Ｂ棟東側）とりこわし工事に伴う立会調査・発掘調査（1205）――――――――――――――――――40
2.（本荘中）医学部基礎研究棟Ｂ棟漏水処置に伴う立会調査（1209）――――――――43
3.（本荘中）国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴う立会調査・発掘調査（1223）――43
4.（本荘中）医学部旧ボイラー室煙突撤去工事に伴う立会調査・発掘調査（1233）――45
5.（本荘中）動物資源研究開発研究施設本館重油地下タンク撤去に伴う立会調査（1242）――――――――――――――――――47
Ⅱ－5　本荘南地区（九品寺地区）――――――――49
1.（本荘南）保健学科Ｅ棟東側地中埋設物撤去工事に伴う立会調査（1243）――――――49
Ⅱ－6　大江地区（薬学部）――――――――――50
1.（大江）屋外給水管修理に伴う立会調査(1219)――――――――――――――――50
2.（大江北）薬学部Ａ棟南側池系統屋外給水管改修工事に伴う立会調査（1231）――――52
3.（大江北）大江地区ＲＩ施設屋外給水弁取替

工事に伴う立会調査（1232）――――53
Ⅱ－7　城東地区――――54
1.（城東）教育学部附属幼稚園屋外埋設ガス配管改修工事に伴う立会調査（1215）――54
Ⅱ－8　京町地区――――55
1.（京町）附属小学校給食センター耐震二次診断調査業務に伴う立会調査（1202）――55
2.（京町）附属小学校給水本管補修工事に伴う立会調査（1210）――――56
3.（京町）教育学部附属中学校西側フェンス改修工事に伴う立会調査（1211）――56
4.（京町）附属小学校体育館系統排水管改修工事に伴う立会調査（1216）――――57
5.（京町）ブロック塀改修工事に伴う立会調査（1221）――――57
6.（京町）教育学部附属小学校校舎A・B棟空気調和設備取設工事に伴う立会調査（1241）――――59
跋文――――63
Summary――――64
付篇――――65
報告書抄録――――68

＜図版目次＞

図1　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）――――2
図2　黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)――――8
図3　黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)――――9
図4　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）――――15
図5　黒髪南地区（東部）における調査地点配置図(1/2000)――――18
図6　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）――――23
図7　1203・1204・1207・1208・1213・1214・1227調査地点配置図（1/1000）――――30
図8　本荘中･南地区における調査地点配置図（1/2000）――――41
図9　大江地区（薬学部）における調査地点配置図(1/2000)――――51
図10　京町地区における調査地点配置図（1/3000）―55

＜写真目次＞

写真1　漏水箇所作業風景（南より）――――7
写真2　漏水箇所掘削状況（西より）――――7
写真3　陥没箇所掘削状況（北より）――――7
写真4　Ⅰ地点トレンチ1作業風景（南東より）――7
写真5　Ⅰ地点東西ルート見通し（東より）――――10
写真6　Ⅰ地点南北ルート掘削状況（南より）――――10
写真7　Ⅰ地点南北ルートピット検出状況（東より）――――10
写真8　Ⅱ地点No.1作業風景（西より）――――10
写真9　Ⅱ地点No.1ハンドホール部掘削終了状況（西より）――――10
写真10　Ⅱ地点No.2掘削終了状況（西より）――――11
写真11　Ⅱ地点No.3掘削終了状況（北より）――――11
写真12　掘削作業風景（南東より）――――11
写真13　配管部掘削終了状況（南より）――――11
写真14　作業風景（南より）――――12
写真15　掘削状況（西より）――――12
写真16　掘削状況（北より）――――12
写真17　掘削状況（北より）――――12
写真18　擁壁撤去作業風景（東より）――――12
写真19　擁壁基礎確認状況（東より）――――12
写真20　擁壁設置個所掘削作業風景（東より）――12
写真21　壁部包含層・遺構面検出状況（南より）――13
写真22　①地点近景（南東より）――――13
写真23　①地点南西隅掘削終了状況（東より）――13
写真24　②地点近景（南東より）――――14
写真25　②地点北西隅掘削終了状況（東より）――14
写真26　全体掘削状況（南より）――――14
写真27　東側掘削状況（南より）――――14
写真28　機器類基礎撤去作業風景（北西より）――16
写真29　機器類基礎破砕状況（北西より）――――16
写真30　温室機械室基礎撤去状況（北東より）――16
写真31　温室A基礎確認状況（南西より）――――16
写真32　温室A基礎確認状況（西より）――――16
写真33　桝①撤去作業風景（南西より）――――16
写真34　埋設管検出状況（北西より）――――17
写真35　倉庫基礎掘削状況（北東より）――――17
写真36　倉庫基礎掘削状況（北東より）――――17
写真37　倉庫西側基礎部掘削状況（北西より）――17
写真38　配管部掘削状況（南より）――――17
写真39　倉庫北側配管部掘削状況（北東より）――18
写真40　フェンス基礎工事前風景（北東より）――18
写真41　フェンス基礎①掘削状況（北東より）――18
写真42　フェンス基礎④掘削状況（北東より）――19

写真43　調査区近景（東より）――19
写真44　樹木撤去作業状況（西より）――19
写真45　樹木撤去部掘削終了状況（西より）――19
写真46　調査区近景（東より）――20
写真47　埋設管新設部分掘削終了状況（北西より）――20
写真48　車庫本体部分掘削終了状況（東より）――20
写真49　A地点近景（北より）――20
写真50　A地点東端掘削終了状況（西より）――20
写真51　B地点近景（北より）――20
写真52　B地点西端掘削状況（南より）――20
写真53　C地点近景（南西より）――21
写真54　C地点東端掘削状況（北より）――21
写真55　調査区Ⅰ地点近景（南西より）――22
写真56　Ⅰ地点西側掘削終了状況（西より）――22
写真57　Ⅰ地点東側近代以降地業面検出状況（北西より）――22
写真58　Ⅰ地点北東側掘削終了状況（東より）――22
写真59　Ⅱ地点掘削終了状況（東より）――22
写真60　①地点掘削状況（北東より）――24
写真61　①地点掘削終了状況（北より）――24
写真62　②地点掘削状況（南東より）――24
写真63　②地点掘削終了状況（南より）――24
写真64　③地点掘削状況（南より）――24
写真65　③地点掘削終了状況（南より）――24
写真66　⑤地点掘削状況（北東より）――25
写真67　⑤地点掘削終了状況（南より）――25
写真68　⑥地点掘削状況（東より）――25
写真69　⑥地点掘削終了状況（東より）――25
写真70　掘削状況（北西より）――25
写真71　雨水桝設置範囲遺構確認状況（東より）――26
写真72　雨水桝設置範囲遺構掘削終了状況（東より）――26
写真73　雨水桝設置範囲1号ピット完掘状況（南より）――26
写真74　雨水桝設置範囲2号ピット完掘状況（西より）――26
写真75　雨水桝設置範囲掘削終了状況（西より）――26
写真76　東半掘削状況（南より）――26
写真77　南西隅包含層確認状況（南より）――27
写真78　作業風景（西より）――27
写真79　東側掘削状況（西より）――27
写真80　西側掘削状況（西より）――27
写真81　②地点作業風景（南西より）――27
写真82　北半掘削状況（南より）――28
写真83　作業風景（北西より）――28
写真84　掘削終了状況（南西より）――28
写真85　東側桝掘削作業風景状況（南西より）――28
写真86　消火管掘削作業風景（西より）――29
写真87　東側消火管掘削終了状況（南西より）――29
写真88　西側消火管掘削終了状況（東より）――29
写真89　基礎杭1214-1掘削終了状況（南西より）――29
写真90　東側樹木掘削風景（南東より）――29
写真91　東側樹木掘削終了状況（西より）――29
写真92　廃液槽掘削終了状況（南西より）――30
写真93　雨水管掘削終了状況（西より）――30
写真94　守衛室掘削終了状況（東より）――30
写真95　作業風景（南より）――31
写真96　北半掘削状況（南東より）――31
写真97　南半掘削状況（北西より）――31
写真98　①地点近景（東より）――31
写真99　①地点掘削終了状況（南より）――32
写真100　②地点掘削風景（東より）――32
写真101　②地点南東部掘削状況（東より）――32
写真102　②地点北部掘削終了状況（東より）――32
写真103　調査区近景（南より）――33
写真104　東側掘削終了状況（南東より）――33
写真105　西側掘削終了状況（南より）――33
写真106　調査区近景（北東より）――33
写真107　支柱杭部分掘削終了状況（北より）――33
写真108　電柱部分包含層検出状況（北より）――33
写真109　電柱部分地山検出状況（北より）――34
写真110　電柱部分掘削終了状況（北より）――34
写真111　No.1掘削風景（西より）――34
写真112　No.1掘削終了状況（西より）――34
写真113　No.2掘削終了状況（南より）――35
写真114　No.3掘削終了状況（北より）――35
写真115　No.4掘削終了状況（北東より）――35
写真116　No.5掘削終了状況（東より）――35
写真117　調査区近景（西より）――36
写真118　外灯撤去部分掘削状況（東より）――36
写真119　外灯撤去部分外灯撤去作業状況（南東より）――36
写真120　外灯撤去部分掘削終了状況（東より）――36
写真121　駐車場支柱部分掘削終了状況（西より）――36
写真122　配線部分掘削終了状況（南より）――36
写真123　外灯移設先掘削作業状況（南より）――37
写真124　外灯移設先遺構確認状況（東より）――37
写真125　外灯移設先1・2号土坑掘削終了状況（東より）――37

写真126　外灯移設先遺構掘削終了状況（東より）――37
写真127　外灯移設先掘削終了状況（東より）――37
写真128　調査区近景（南より）――38
写真129　掘削断面（南より）――38
写真130　掘削終了状況（南より）――38
写真131　調査区近景（北西より）――38
写真132　南部分掘削作業状況（東より）――38
写真133　南部分掘削終了状況（南より）――38
写真134　中央部分掘削終了状況（南東より）――39
写真135　北部分掘削終了状況（南より）――39
写真136　調査区近景（西より）――39
写真137　掘削作業状況（西より）――39
写真138　掘削終了状況（南より）――40
写真139　調査区近景（西より）――42
写真140　北側遺構検出状況（北より）――42
写真141　南側遺構検出状況（南より）――42
写真142　調査区全景（南より）――42
写真143　１号溝（北側）掘削終了状況（南西より）―42
写真144　１号溝（南側）掘削終了状況（北東より）―42
写真145　漏水箇所掘削状況（北より）――43
写真146　プラグ止め箇所西壁掘削終了状況（東より）――43
写真147　一次掘削風景（東より）――43
写真148　東側配管撤去状況（北西より）――44
写真149　西側配管路掘削状況（南より）――44
写真150　西側桝撤去掘削状況（南より）――44
写真151　調査区東側全景（南より）――44
写真152　調査区西側全景（南より）――45
写真153　竪穴住居址竈遺物出土状況（南東より）――45
写真154　竪穴住居址掘削状況（南より）――45
写真155　掘立柱建物址柱穴半截断面（東より）――45
写真156　溝掘削状況（南東より）――45
写真157　調査区近景（南東より）――46
写真158　掘削作業状況（北東より）――46
写真159　フーチング北側断面（南より）――46
写真160　調査区北東部掘削終了状況（南東より）――46
写真161　遺構確認状況（北より）――46
写真162　遺構掘削終了状況（北より）――46
写真163　落ち込み完掘状況（北より）――47
写真164　ピット完掘状況（東より）――47
写真165　調査区近景（西より）――47
写真166　オイルタンク部掘削作業状況（東より）――47
写真167　オイルタンク部南壁包含層検出状況（北より）――47
写真168　オイルタンク部タンク除去状況（東より）―48
写真169　配管部地点中央部掘削終了状況（西より）―48
写真170　配管部地点北西部掘削終了状況（南より）―48
写真171　調査区近景（南西より）――49
写真172　オイルタンク部掘削作業状況（東より）――49
写真173　オイルタンク部掘削終了状況（北東より）―49
写真174　オイルタンク部タンク撤去状況（北より）―49
写真175　オイルタンク部西壁包含層検出状況（東より）――49
写真176　配管部掘削終了状況（南東より）――50
写真177　配管部西端掘削終了状況（南東より）――50
写真178　Ａ地点掘削風景（南西より）――50
写真179　Ａ地点掘削終了状況（南西より）――50
写真180　Ｂ地点掘削風景（西より）――51
写真181　Ｂ地点掘削終了状況（西より）――51
写真182　調査区近景（南西より）――52
写真183　車道ゲート付近掘削終了状況（南西より）―52
写真184　宮本記念館池周り掘削状況（南西より）――52
写真185　宮本記念館南西隅掘削作業状況（西より）―52
写真186　宮本記念館南西隅掘削作業状況（西より）―52
写真187　宮本記念館南側掘削終了状況（西より）――53
写真188　資料館東側掘削終了状況（南より）――53
写真189　調査区近景（南東より）――53
写真190　掘削状況（西より）――53
写真191　掘削終了状況（北西より）――53
写真192　トレンチ１作業風景（南西より）――54
写真193　トレンチ１掘削状況（南より）――54
写真194　通用門作業風景（北西より）――54
写真195　通用門西半部掘削状況（西より）――54
写真196　通用門東半部掘削状況（東より）――54
写真197　①地点掘削終了状況（北西より）――55
写真198　②地点掘削終了状況（西より）――55
写真199　②地点掘削終了状況（西より）――55
写真200　北地点掘削終了状況（東より）――56
写真201　南地点掘削終了状況（西より）――56
写真202　全体終了状況（東より）――56
写真203　調査区北半近景（南より）――56
写真204　東側掘削部掘削終了状況（東より）――57
写真205　西側掘削部掘削終了状況（北より）――57
写真206　作業風景（北西より）――57
写真207　遺構面検出状況（南より）――57
写真208　⑥⑦スパン掘削状況（南西より）――57
写真209　№１作業風景（南東より）――58
写真210　№１掘削終了状況（東より）――58
写真211　№２作業風景（東より）――58
写真212　№２掘削終了状況（北より）――58

写真213　№３作業風景（東より）――――――58
写真214　№３掘削終了状況（南より）――――――58
写真215　№４作業風景（東より）――――――59
写真216　№４掘削終了状況（南より）――――――59
写真217　№５作業風景（北東より）――――――59
写真218　№５掘削終了状況（南より）――――――59
写真219　Ａ棟地点近景（北西より）――――――59
写真220　Ａ棟地点掘削作業状況（西より）――――60
写真221　Ａ棟地点西部桝掘削終了状況（南東より）―60
写真222　Ａ棟地点北西部掘削終了状況（東より）――60
写真223　Ｂ棟地点近景（北西より）――――――60
写真224　Ｂ棟地点掘削終了状況（北より）――――60

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――１
表２　2012年度調査一覧――――――――――３

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は，表２のとおり，発掘調査６件，立会調査44件を実施した．地区別に見ると，黒髪北・南地区12件，本荘北・中・南地区22件，大江地区３件，京町地区６件，城東地区１件である．

本年度実施した主な発掘調査は，本荘北地区における水銀指定基準超過区域土壌掘削除去に伴う調査（1207調査地点），外来診療棟新営電気設備工事に伴う調査（1226調査地点），医学部駐輪場取設工事に伴う調査（1234調査地点），本荘中地区の医学部基礎研究棟（Ｂ棟東側）とりこわし工事に伴う調査（1205調査地点），国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴う調査（1223調査地点），医学部旧ボイラー室煙突撤去工事に伴う調査（1233調査地点）である．国際先端医学研究拠点新営工事に伴う調査以外は，立会調査から切替えた調査である．発掘調査が本荘地区に偏っているのは，比較的規模の大きな開発が本荘地区に多かったためと言える．

本荘北地区に所在する1207調査地点の調査は病院南西部の立体駐車場建設区域内の水銀汚染土壌を除去するため，地表下２ｍまで掘削する工事に伴うものであった．発掘したのは雨水桝設置部分で検出されたピット２基であったが，この他立会調査では古代の堅穴住居址や溝の可能性がある土も確認された．本地点から西へ40～60ｍ離れた所には古墳時代や古代の遺構が多数検出された0411・0509調査地点があり，本地点周辺にも該期の遺構が存在していることがわかった．

1226調査地点の調査は病院東側の第一立体駐車場の北側に立てた電柱１本分の調査であった．地表下1.1ｍに黒褐色土が存在した．黒褐色土の底面は平坦で，地山との層界も明瞭であったため，遺構であると判断されたが，掘削範囲が狭かったため，それが溝であるのか，土坑であるのか，それ以外の遺構であるのかは判断できなかった．今後周辺が調査されれば，その遺構が何であるのかが明らかになろう．

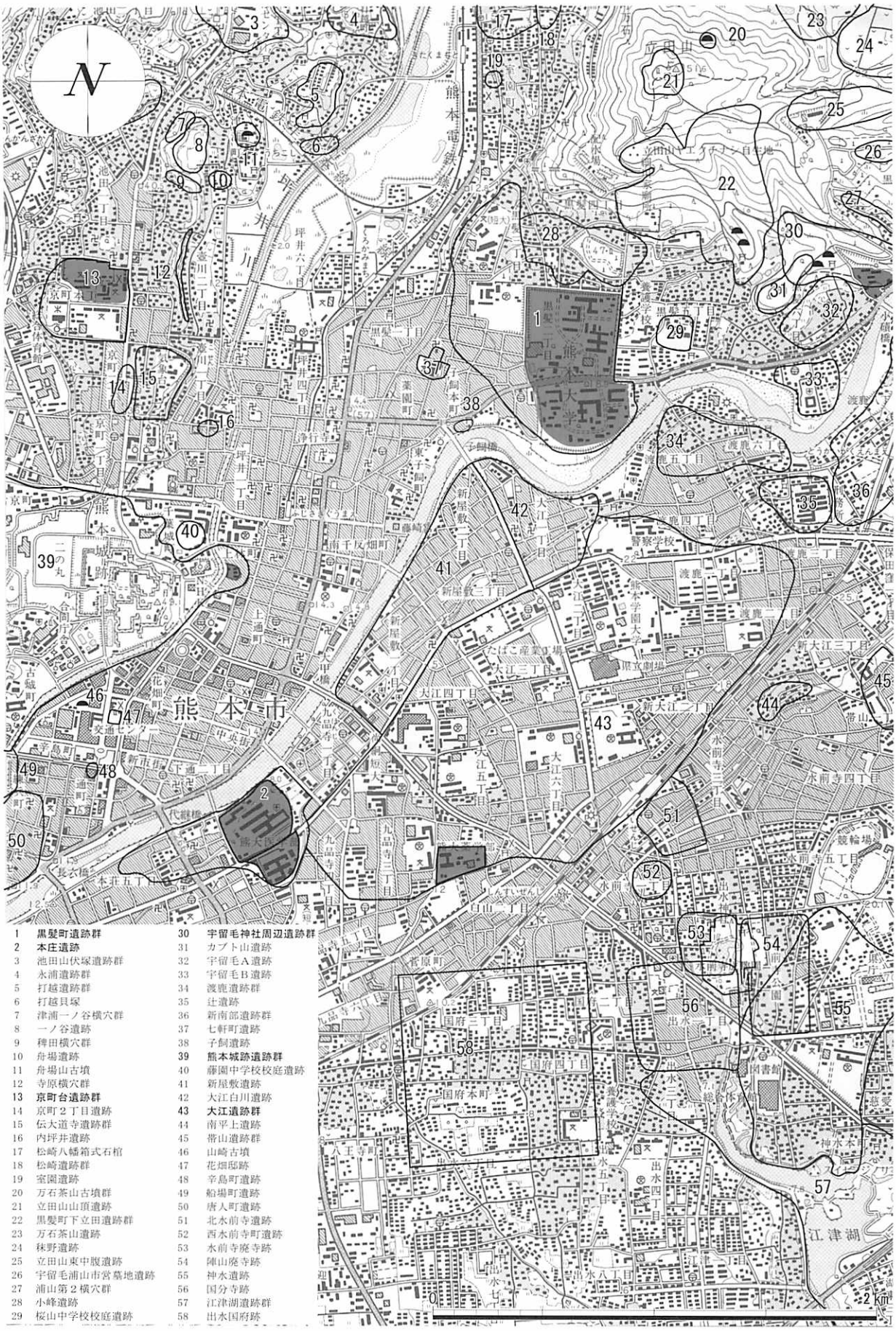
1234調査地点は臨床医学教育研究センター北側に位置し，地表下0.9ｍで，方形の土坑３基が確認された．調査は工事の掘削底面である地表1.4ｍまでであったため，土坑の下底面までは検出できなかったが，同センター建設時（1104調査地点）の調査では431基もの近代墓壙が検出されているため，墓壙である可能性が高いと推測された．

本荘中地区の1205調査地点では，地表下1.8ｍ付近において，解体した建物（基礎研究棟Ｂ棟）の基礎の間

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本市中央区黒髪2丁目40-1 熊本市中央区黒髪5丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪2丁目39-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部6丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（発生医学研究所、エイズ学研究センター等）	熊本市中央区本荘2丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘1丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺4丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	大江地区（薬学部等）	熊本市大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市渡鹿4丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（学生寄宿舎・職員宿舎等）	熊本市中央区黒髪7丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛Ａ遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛Ｂ遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	**39**	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	**43**	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	秣野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

表2　2012年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
12・4・10	1201	（黒髪南）事務局南側寄贈樹木植栽工事	立会調査	0.9㎡		遺構・遺物なし
12・6・13	1202	（京町）附属小学校給食センター耐震二次診断調査業務	立会調査	7.1㎡		遺構・遺物なし
12・6・14,15 12・6・18 12・7・9,10 12・10・15,16	1203	（本荘北）本荘北地区駐車場配管工事（新設）	立会調査	159.7㎡		磁器
12・6・20,29 12・7・3,26 12・7・31 12・8・6,17	1204	（本荘北）樹木移植等工事	立会調査	1360㎡		磁器
12・6・19～ 12・7・19	1205	（本荘中）医学部基礎研究棟（B棟東側）とりこわし工事	立会調査／発掘調査	756㎡	古代・近世	溝・ピット・土師器・須恵器・陶磁器・獣骨
12・6・25	1206	（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管補修他工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし
12・6・29 12・7・3～5	1207	（本荘北）水銀指定基準超過区域土壌掘削除去	立会調査／発掘調査	100㎡	古代・近代	竪穴住居址・墓・溝（保存）・ピット2・土師器・須恵器
12・7・9,10	1208	（本荘北）立体駐車場支障配線替工事	立会調査	73.7㎡		遺構・遺物なし
12・7・6,9 12・7・13	1209	（本荘中）医学部基礎研究棟B棟漏水処置	立会調査	9.7㎡		遺構・遺物なし
12・7・17	1210	（京町）附属小学校給水本管補修工事	立会調査	3.3㎡		遺構・遺物なし
12・7・23,24	1211	（京町）教育学部附属中学校西側フェンス改修工事	立会調査	33.2㎡		遺構・遺物なし
12・7・31	1212	（医病）西病棟西側道路陥没復旧工事	立会調査	6.9㎡		遺構・遺物なし
12・8・17,20	1213	（本荘北）本荘北地区駐車場既設配管工事	立会調査	468㎡		遺構・遺物なし
12・8・16,17 12・8・20 12・9・5	1214	（本荘北）立体駐車場新営その他工事	立会調査	224.3㎡		磁器・土師器
12・8・21	1215	（城東）教育学部附属幼稚園屋外埋設ガス配管改修工事	立会調査	106.5㎡ (35㎡)		遺構・遺物なし
12・8・28	1216	（京町）附属小学校体育館系統排水管改修工事	立会調査	39.5㎡		遺構・遺物なし
12・8・30	1217	（医病）駐車場整備員控室改修機械設備工事	立会調査	4.1㎡		遺構・遺物なし
12・9・3,4	1218	（黒髪北）防災管理システム取設工事	立会調査	241.8㎡ (100.3㎡)		ピット・土器・陶磁器
12・9・12,13	1219	（大江）屋外給水管修理	立会調査	39.9㎡		遺構・遺物なし
12・9・14	1220	（黒髪北）プール機械室冠水対策工事	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし
12・9・19	1221	（京町）ブロック塀改修工事	立会調査	171㎡		遺構・遺物なし
12・9・20,21	1222	（医病）外来診療棟新営機械設備工事	立会調査	40㎡		遺構？

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
12・9・26～28 12・10・1～ 12・12・18	1223	（本荘中）国際先端医学研究拠点施設新営工事	立会調査／発掘調査	1059㎡	古代・近世	溝・竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・ピット・石製品・土師器・須恵器・陶磁器・土製品・鉄製品・獣骨
12・10・15. 12・10・23,24	1224	（黒髪南）理学部温室Ａとりこわし工事	立会調査	193㎡ (14.6㎡)		遺構・遺物なし
12・11・9	1225	（医病）西病棟西側地盤改良工事	立会調査	31.6㎡		遺構・遺物なし
12・11・13	1226	（本荘北）外来診療棟新営電気設備工事	立会調査／発掘調査	2.2㎡		遺構？
12・11・19,20 12・11・21	1227	（本荘北）立体駐車場新営その他工事（追加）	立会調査	27.6㎡		遺構・遺物なし
12・11・26,27 12・12・20	1228	（黒髪南）理学部圃場倉庫新営工事	立会調査	132.0㎡ (27.6㎡)	古代	溝又は住居址？
12・12・10	1229	（黒髪北）教育学部本館植栽植替工事	立会調査	2.5㎡		遺構・遺物なし
12・12・18,19	1230	（黒髪北）教育学部北側擁壁改修工事	立会調査	5.2㎡	古代	ピット・土師器・須恵器
13・1・28,29	1231	（大江）薬学部Ａ棟南側池系統屋外給水管改修工事	立会調査	36.3㎡		遺構・遺物なし
13・1・30	1232	（大江）大江地区ＲＩ施設屋外給水弁取替工事	立会調査	1.2㎡		遺構・遺物なし
13・2・7,8 13・2・12,13	1233	（本荘中）医学部旧ボイラー室煙突撤去工事	立会調査／発掘調査	9.3㎡	古代	ピット・土師器
13・2・21,22	1234	（本荘北）医学部駐輪場取設工事	立会調査／発掘調査	24.1㎡	古代・近世以降	土坑・土師器・須恵器・磁器
13・2・21	1235	（医病）構内ガス管緊急補修工事	立会調査	1.1㎡		遺構・遺物なし
13・2・27	1236	（黒髪北）教育学部喫煙所設置工事	立会調査	0.6㎡		遺構・遺物なし
13・2・27	1237	（黒髪南）理学部３号館南側実験廃棄物置場工事	立会調査	9.0㎡		遺構・遺物なし
13・2・28	1238	（黒髪南）電気自動車車庫新営工事	立会調査	11.2㎡		遺構・遺物なし
13・3・5	1239	（医病）構内ガス管緊急補修工事	立会調査	8.0㎡		遺構・遺物なし
13・3・6	1240	（黒髪南）工学部駐輪場工事	立会調査	2.7㎡		遺構・遺物なし
13・3・7	1241	（京町）教育学部附属小学校校舎Ａ・Ｂ棟空気調和設備取設工事	立会調査	27.2㎡		遺構・遺物なし
13・3・11,14	1242	（本荘中）動物資源研究開発研究施設本館重油地下タンク撤去	立会調査	29.8㎡		遺構・遺物なし
13・3・21,25	1243	（本荘南）保健学科Ｅ棟東側地中埋設物撤去工事	立会調査	29㎡		遺構・遺物なし
13・3・26	1244	（本荘北）看護師宿舎１階院内保育園改修機械設備工事	立会調査	1.8㎡		遺構・遺物なし

から，最大幅4.2mの溝が検出された．溝は北東から南西に向かって緩やかに傾斜するものであった．この溝は9511調査地点の30号溝，9801調査地点（エイズ学研究センター）の３号溝とつながるもので，近世初期の所産と判断された．

1223調査地点は1205調査地点の北隣に位置しているが，古墳時代後期から平安時代初め（８世紀後葉）にかけての竪穴住居址29軒と，平安時代（９世紀末ないし10世紀初め）の大形掘立柱建物址が検出された．今までの調査では本庄遺跡は本荘北地区，中でも白川寄りの北部域において遺構が稠密に存在することがわかっていた．今回の調査により，本荘中地区においても集落の拠点的な場所が存在することが明らかになったと言える．

1233調査地点は本荘中地区の南西部に位置する．旧ボイラー室の煙突の基礎の周りには包含層が残っており，古代の遺構の存在も確認された．1223・1233調査地点においては，古代の遺構は地表下1.2～1.3m付近より検出されている．当該深度に基礎しか設置されていない建物の場合は，基礎の間に遺構が残っていることが改めて確認されたと言える．

このほか黒髪地区では立会調査において遺構が確認された．黒髪南地区の理学部圃場倉庫新営工事に伴い実施した立会調査（1228調査地点）では地表下0.6mで古代の遺構の一部が確認された．また黒髪北地区の教育学部北側擁壁改修工事に伴う立会調査（1230調査地点）では段丘崖と思われる段差と柱穴と思われる遺構を検出した．前者は掘削が遺構確認面までで留まり，後者は計画を縮小して遺構を保存することができた．中でも構内北辺で段丘崖をとらえたのは重要である．段丘崖の斜面で工事が行われると浅い位置で遺構が検出されることが予想されるため，今後注意を払う必要がある．

最後に，今年度1205調査地点において，調査員が工事業者に不適切な指示をして現場を離れたため，遺跡の毀損を起こしてしまった．このようなことがないよう，再発防止に努めていきたい．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－１　黒髪北地区　（図２・３参照）

１．（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管補修他工事に伴う立会調査（1206）

＜調査期間＞

2012年６月25日

＜調査面積＞

1.8㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

五高記念館南側入口（西側）付近で水道管の漏水が見つかったため，急遽補修工事を行った．そのための立会調査である．0.7×0.7ｍの範囲を地表下0.6ｍまで掘削したが，埋土内である．遺構・遺物の検出はない．

また，緑地帯で陥没した箇所があり，原因究明のための掘削を行った．0.9×1.5ｍの範囲を掘削したところ，腐食した樹根が入っていることが判明した．これが陥没の原因と思われる．地表下0.7ｍまで掘削すると，一部で包含層と思われる黒色の土層と，地山と思われる土層を検出した．掘削はここまでとして，作業は終了した．遺構・遺物の検出はない．

写真１　漏水箇所作業風景（南より）

写真２　漏水箇所掘削状況（西より）

写真３　陥没箇所掘削状況（北より）

２．（黒髪北）防災管理システム取設工事に伴う立会調査（1218）

＜調査期間＞

2012年９月３日・４日

＜調査面積＞

241.8㎡（100.3㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

防災管理システム取設工事に伴う立会調査である．

西側のⅠ地点および東側のⅡ地点からなる．

Ⅰ地点は保健センター南東の緑地帯を通る共同溝から，図書館駐車場南側を通り門衛所まで電気配線する工事である．

写真４　Ⅰ地点トレンチ１作業風景（南東より）

図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

※座標は世界測地系を用いた。

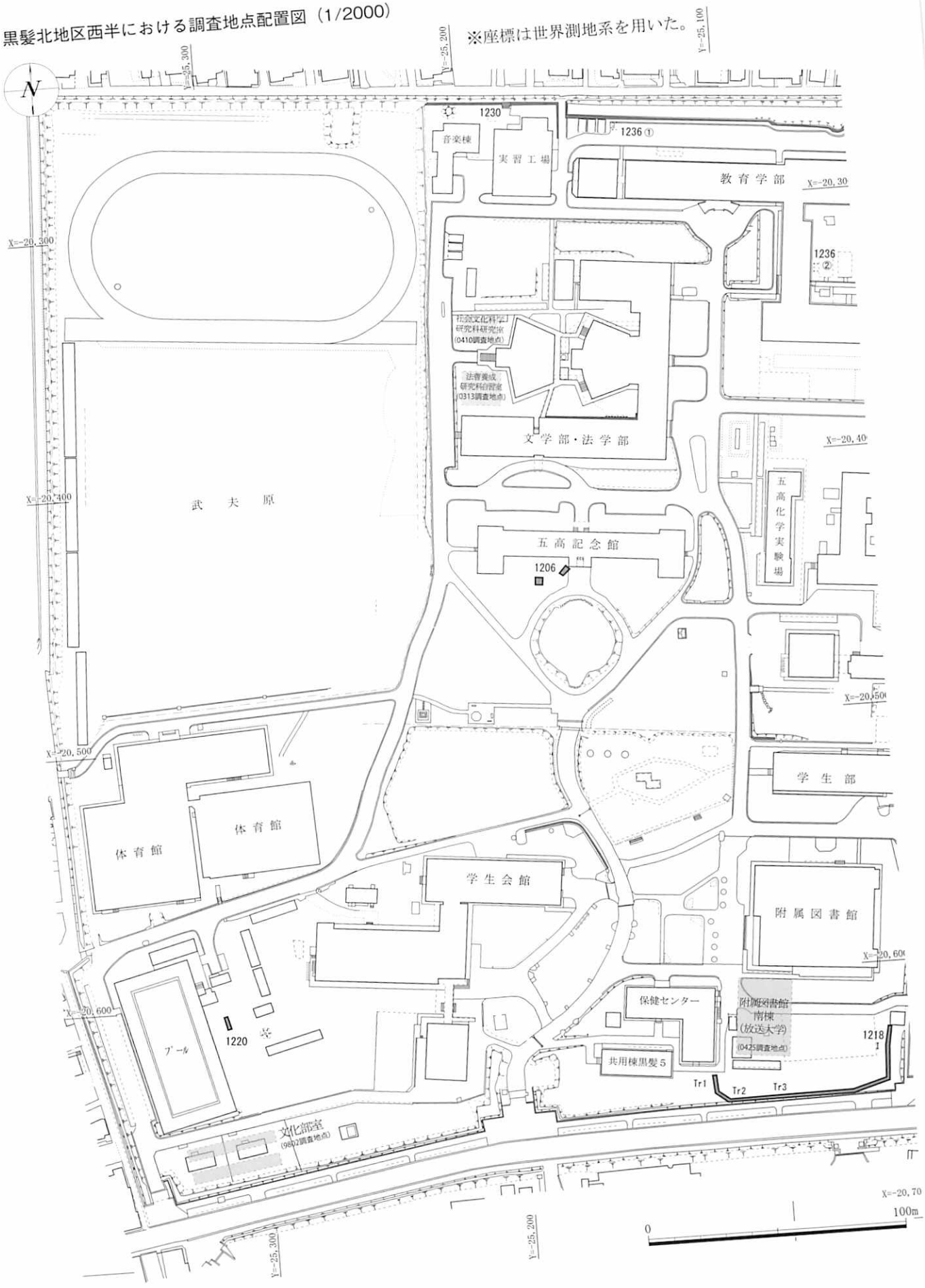
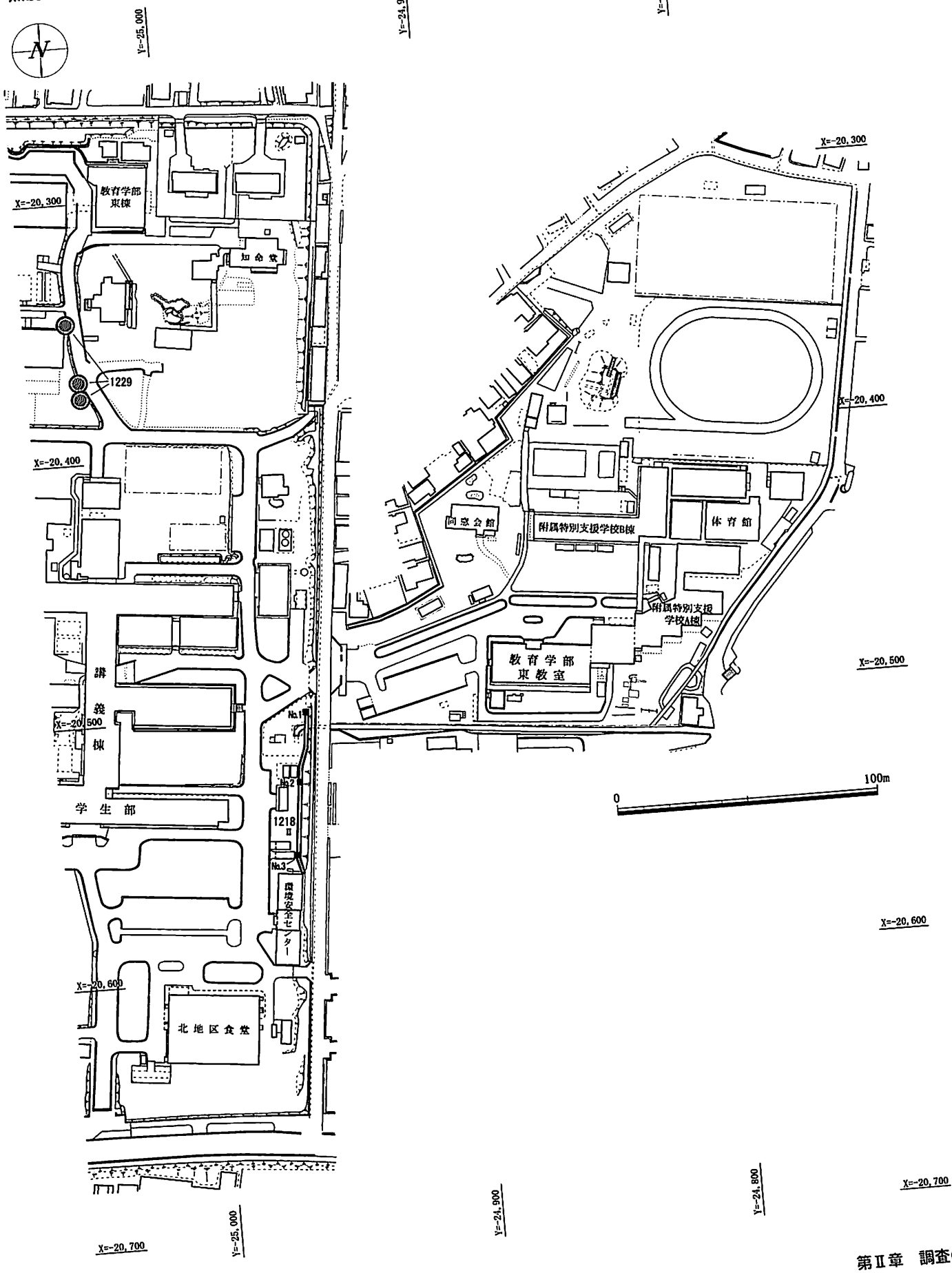


図3　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）



共同溝への接続部分について2.1×0.6mのトレンチ（Tr1）を設定して掘削を行った．地表下0.3mで共同溝を検出し，共同溝の南側を掘削したところ本体から0.3mまでが掘り方であることを確認した．施工に必要な深さ地表下1.1mまで掘削して埋土であることを確認，接続はこの範囲内で行うよう指示した．

東西ルートの西端部にトレンチ（Tr2）を設定して掘削を行ったところ，地表下0.7mで包含層を一部検出し，須恵器片１点が出土した．さらに，Tr2の東側25m付近にトレンチ（Tr3）を設定して掘削したところ地表下0.5mで包含層が検出された．このため，Tr2より東側は少なくとも包含層の掘削を伴うと判断され，全面について立会を実施した．東西部は地表下0.6～0.7mで包含層を検出した．掘削は包含層上面までとした．

東側の南北ルート部分では門衛所から南へ５m程の範囲では，幅0.6mの掘削のうち西半分では包含層は削平されているものの遺構面が残されており，2.7m付近でピットを１つ検出した．東半分は撹乱を受けていた．以南は樹根が顕著で，掘削面を精査することは困難であったが，地表下0.65～0.7mでは遺構面の土層であることは確認できた．

Ⅱ地点は北隅のハンドホール設置箇所とそこから南へ延びる幅1.5m・長さ約70mの埋設配管路の掘削からなる．ハンドホール設置箇所（№１），配管路の中間（№３），同南部（№２）がある．

Ⅱ地点№１は工事エリアの北端に当たり，1.6×1.1mの長方形の範囲を深さ1.0mまで掘削し，その東側の接続部分1.3×0.9mの範囲も掘削した．接続部分は地表下に塩ビ管があったため，掘削深度が0.5mより浅くなった．暗褐色の埋土内の掘削で済んだ．№１において土器２点，

写真５　Ⅰ地点東西ルート見通し（東より）

写真６　Ⅰ地点南北ルート掘削状況（南より）

写真７　Ⅰ地点南北ルートピット検出状況（東より）

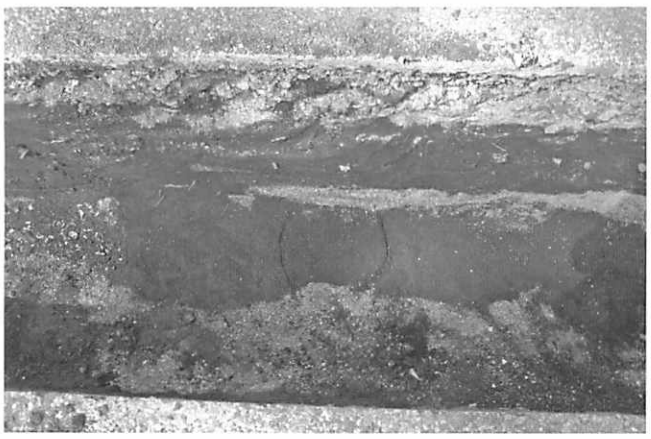


写真８　Ⅱ地点№１作業風景（西より）

写真９　Ⅱ地点№１ハンドホール部掘削終了状況（西より）

陶磁器２点が出土したが，遺構は検出されなかった．№２は学務部倉庫Ａの東側において1.7×0.7mの範囲を深さ0.7mまで掘削した．掘削したのは暗褐色の埋土であった．№３は薬品庫の北東側において，2.0×0.7mの範囲を深さ0.7～0.8m掘削した．埋土内の掘削で終わった．この№２・３では遺構・遺物はなかった．この配管箇所は黒髪北キャンパスの東塀近くにあり，塀に向かっての盛り土の裾部にもあたっており，管路全体を掘削しても埋蔵文化財に影響はないと判断し，慎重に工事を進めるように指示して立会を終了した．

写真10　Ⅱ地点№２掘削終了状況（西より）

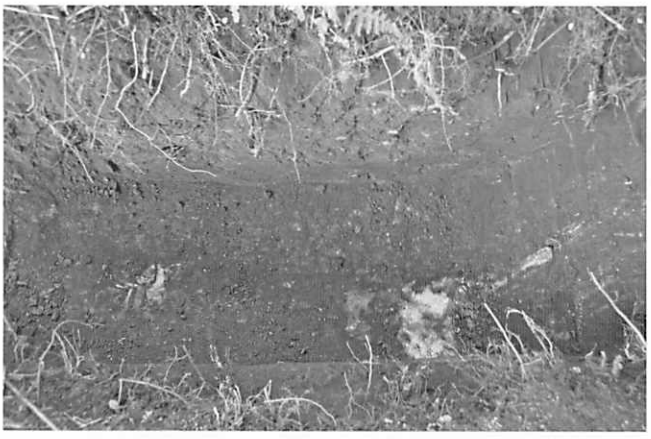


写真11　Ⅱ地点№３掘削終了状況（北より）

３．（黒髪北）プール機械室冠水対策工事に伴う立会調査（1220）

＜調査期間＞

2012年９月14日

＜調査面積＞

1.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

プール機械室南東隅の桝設置部分とその南側の配管部分からなる．桝設置部分は0.55×0.5mの範囲を深さ0.4～0.45m掘削した．掘削は表土ないしは埋土内であった．配管部分は長さ2.4m，幅0.35～0.4mの範囲を深さ0.35～0.4m掘削した．掘削は表土ないし埋土内で終わった．遺物・遺構はなかった．

写真12　掘削作業風景（南東より）

写真13　配管部掘削終了状況（南より）

４．（黒髪北）教育学部本館植栽植替工事に伴う立会調査（1229）

＜調査期間＞

2012年12月10日

＜調査面積＞

2.5㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

教育学部周辺の緑地帯・花壇につつじを合計９本植栽するものである．直径0.3～0.35m，深さ0.25～0.3mの穴を掘削したが，いずれも埋土内であり遺構・遺物の検出はなかった．

写真14　作業風景（南より）

写真15　掘削状況（西より）

写真16　掘削状況（北より）

写真17　掘削状況（北より）

5.（黒髪北）教育学部北側擁壁改修工事に伴う立会調査（1230）

＜調査期間＞

2012年12月18日・19日

＜調査面積＞

5.2㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区北側の敷地を囲う石垣の一部に設置されている擁壁の一部に損壊があったため，古いものを撤去し，

写真18　擁壁撤去作業風景（東より）

写真19　擁壁基礎確認状況（東より）

写真20　擁壁設置個所掘削作業風景（東より）

写真21　壁部包含層・遺構面検出状況（南より）

新しいものを設置する工事である．

擁壁の撤去については，南側を試掘したところ，地表下0.5mで擁壁の底盤が確認できた．埋土内であり，業者にはこの深さで撤去するように指示した．

新設箇所については，地上の石垣を撤去した後，新設予定範囲を掘削した．地表下0.2～0.3mで古代の包含層が確認できたため，一旦掘削をとめ遺構の有無を精査したが遺構は確認されなかった．包含層を掘削すると，地表下0.5mで遺構面に達した．精査の結果，柱穴と思われる直径0.6m程度のピットを検出した．これ以上の掘削は行わないため，現状保存とした．次に新しい擁壁は石垣に埋め込む形になるため，従来の石垣の裏込めに相当する部分を奥（北）に向かって，壁をおとすように掘削した．すると，従来の石垣全面から0.8m奥の地点で擁壁の掘り方が終了し，遺構面と包含層が地上0.9mの高さで確認された．このため，遺構面上面までをまず掘削し，遺構の有無を確認したうえで垂直にカットした．大学構内敷地の地表と，囲障外の住宅地の地表とはかなり標高差があり，この北側の囲障付近に段丘面が存在するのではないかと考えられたが，今回の掘削では，恐らくその段丘面を検出したと思われる．

6．（黒髪北）教育学部喫煙所設置工事に伴う立会調査（1236）

＜調査期間＞

2011年10月27日

＜調査面積＞

0.6㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

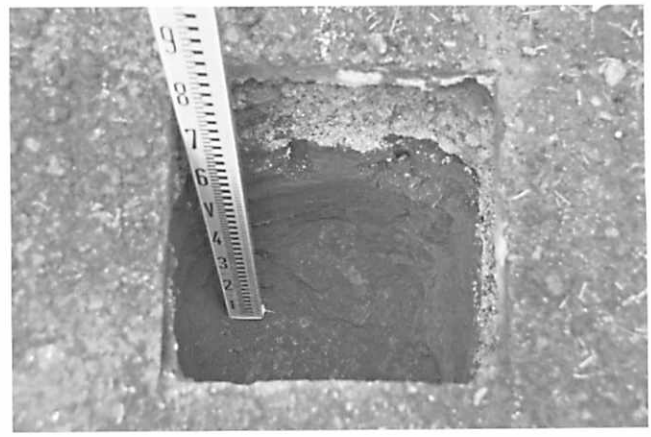
教育学部車庫東側（①地点）と同学部校舎東側出口南（②地点）からなる．

①地点は2.9×1.5mの範囲に喫煙所の基礎５箇所の掘削を行った．各基礎の規模は一辺0.2～0.3mの方形をなし，深さは浅いもので0.4m，深いもので0.75mあった．全ての掘削箇所において，地表直下0.05mまではアスファルト，0.2ないし0.3mまでは砕石があった．５箇所のうち４箇所ではその直下に黒褐色ないし暗褐色の包含層が存在し，掘削底面まで続いていた．そのうち南西隅の１箇所は0.75mまで掘削したが，その断面の観察によると，地表下0.35mまではやや軟らかい黒褐色土が存在し，地表下0.45mまではややしまる黒褐色土が存在した．地表下0.75mまでは上層に比べやや明るい暗褐色土が存在し，部分的にブロック状になっていた．上記４箇所を除く北西隅の１箇所は地表下0.7mまで埋土が入っており，その底面で暗褐色土が確認された．この黒褐色土は古代または弥生時代の可能性があるが，遺物は出土せず，時期は特定できなかった．暗褐色土も遺物は出土せず，時期は不明である．遺構は黒褐色土または暗褐色土の上面で確認したが，検出されなかった．

②地点は2.8×1.3mの範囲に５箇所の基礎を掘削する工事であったが，北西隅，南西隅，北東隅の３箇所の掘削に立ち会った．各基礎の規模は0.3×0.3m．北西隅は

写真22　①地点近景（南東より）

写真23　①地点南西隅掘削終了状況（東より）



地表下0.6m，南西隅は同0.67m，北東隅は同0.4mまで掘削したが，いずれも埋土の存在を確認しただけであった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真24　②地点近景（南東より）

写真25　②地点北西隅掘削終了状況（東より）

Ⅱ－2　黒髪南地区　（図４・５参照）

１．（黒髪南）事務局南側寄贈樹木植栽工事に伴う立会調査（1201）

＜調査期間＞

2012年４月10日

＜調査面積＞

0.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子．

＜調査概要・結果＞

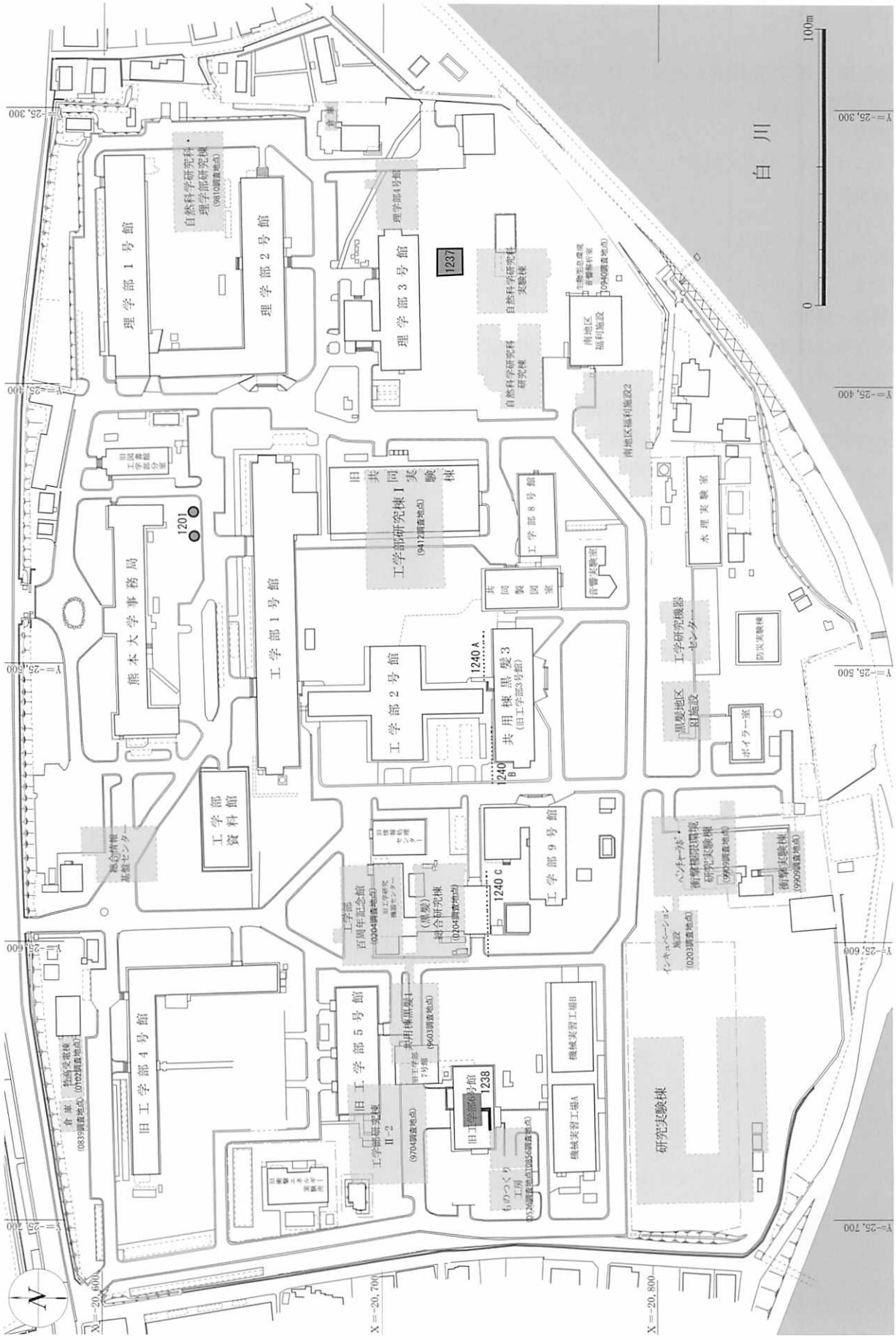
事務局南側の樹木植栽工事箇所はアスファルト道路面より少し高くなった芝生部分に当たる．

２箇所のトレンチ掘削を行った．西側の掘削箇所は0.6×0.6mの範囲で，深さ0.4mまで掘削したが，埋土内であり，遺構・遺物ともに検出しなかった．東側の掘削箇所は当初0.6×0.6m，深さ0.45mまでの掘削であったが，下にコンクリート基礎が検出されたため，熊本市文化振興課へ連絡の上，西側に拡張し，0.9×0.7m，深さ0.45mまで掘削した．なお文化財保護法93条の届出は１m×

写真26　全体掘削状況（南より）

写真27　東側掘削状況（南より）

図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



1 m，深さ0.5m であった．こちらも掘削は埋土の中で収まり，遺物・遺構ともに検出されなかった．

2．（黒髪南）理学部温室Ａとりこわし工事に伴う立会調査（1224）

＜調査期間＞

2012年10月15日・23日・24日

＜調査面積＞

193㎡（14.6㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

理学部圃場に設置されている温室Ａ及び附属物の撤去工事に立ち会った．

温室機械室北側の機器類基盤については，コンクリート盤が10cm程度表土に埋まっている状態であった．一部を破砕して掘削を伴わずに撤去が可能であることを確認した．

温室機器室は，基礎を全面出したのち，基礎内側を基礎底盤（地表下0.5m）まで掘削した．この範囲は全て埋土である．外側を試掘したところ，底盤が外側に広がらない事が判明した．遺構検出面に近い深さであるため，

写真28　機器類基礎撤去作業風景（北西より）

写真29　機器類基礎破砕状況（北西より）

写真30　温室機械室基礎撤去状況（北東より）

写真31　温室Ａ基礎確認状況（南西より）

写真32　温室Ａ基礎確認状況（西より）

写真33　桝①撤去作業風景（南西より）

写真34　埋設管検出状況（北西より）

基礎は掘削せず内側へ破断，引き倒して撤去することとした．温室Ａ本体も，同様の基礎構造であったため，温室Ａ基礎の撤去も同じ工法をとることを確認，指示した．

温室Ａ南側の桝２箇所については，温室側が既に掘削されているため，温室側に倒すことで撤去が可能であった．

温室から北に延びる水道管は幅0.4mで掘削して管を出し，栓から0.3m付近で切断し撤去した．側溝は，Ｕ字ブロックを重機で引き上げて撤去し，周辺の掘削を伴わないようにした．

遺構・遺物の検出はなかった．

３．（黒髪南）理学部圃場倉庫新営工事に伴う立会調査（1228）

＜調査期間＞

2012年11月26日・27日・12月20日

＜調査面積＞

132㎡（27.6㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

理学部圃場に倉庫と洗い場，水生植物栽培槽周囲にフェンスを設置する工事である．土間以外の部分では，既往の調査成果を鑑みると遺構面に達する恐れがあったため，基礎工事部分については立会を行った．

倉庫基礎部分では，地表下0.5mまで掘削を行った．一部で遺構面に達したが，これ以上の掘削は行わず，他の場所ではぎりぎり包含層内に収まった．西側の独立基礎は0.9×0.9m，深さ地表下0.6～0.7m掘削を３箇所において行ったが，いずれも埋土内であった．

新しく敷設する北へ延びる水道部分は幅0.3m，深さ0.3～0.4mの掘削を行った．埋土内であった．倉庫北側東西に延びる水道管も同様に掘削し，埋土内に収まった．

写真35　倉庫基礎掘削状況（北東より）

写真36　倉庫基礎掘削状況（北東より）

写真37　倉庫西側基礎部掘削状況（北西より）

写真38　配管部掘削状況（南より）

写真39　倉庫北側配管部掘削状況（北東より）

写真40　フェンス基礎工事前風景（北東より）

西側の南北部分は幅0.9m，深さ0.4mで掘削した．埋土内であった．洗い場設置部分も1.15×1.15mの範囲を地表下0.7mまで掘削したが，埋土内であった．

水生植物栽培槽周囲に巡らせるフェンス基礎では，0.3×0.3m，深さ0.5mを南側で３か所，門柱に相当するやや大きい基礎を設置する個所では0.6×0.6m，深さ0.6mを掘削した．小さいフェンス基礎は全て埋土内に収まった．大きな基礎部分では遺構面に達したため精査を行ったが，遺構は確認されなかった．

写真41　フェンス基礎①掘削状況（北東より）

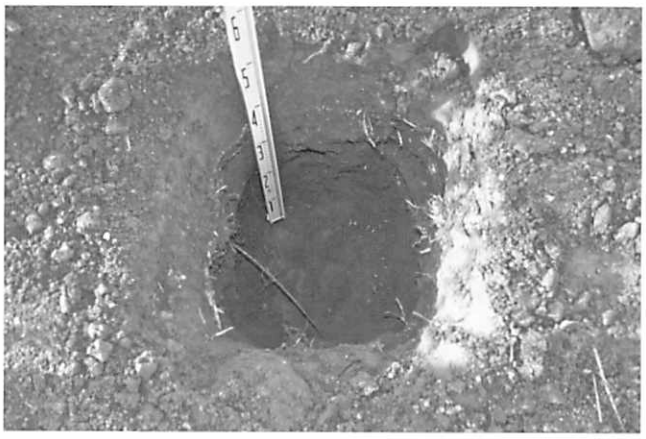


図５　黒髪南地区（東部）における調査地点配置図（1/2000）

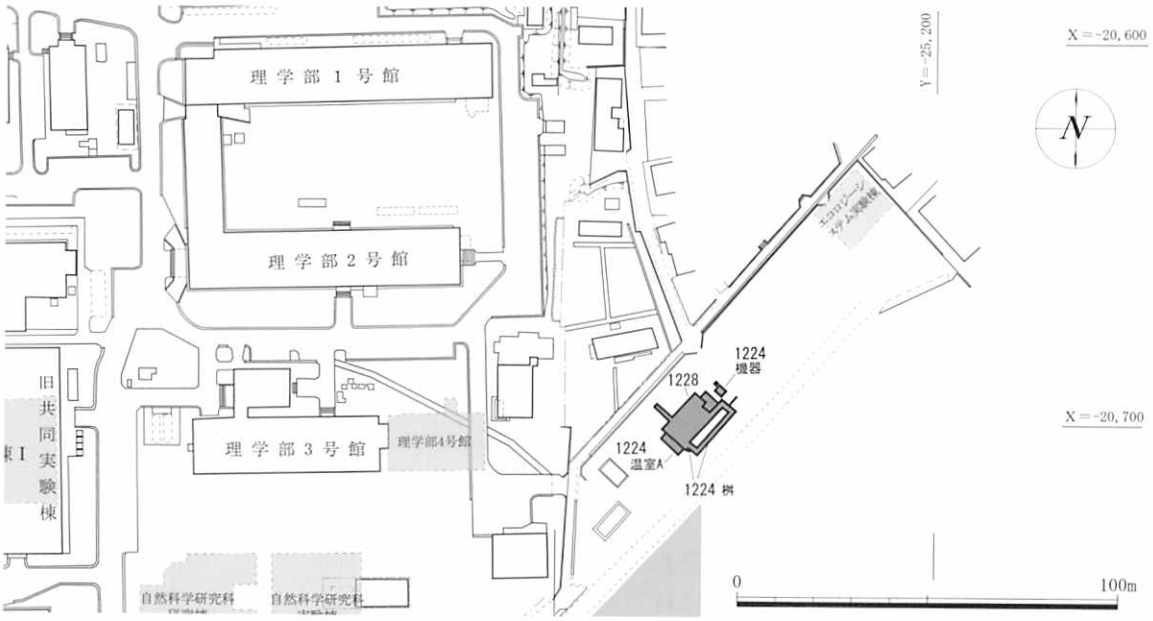
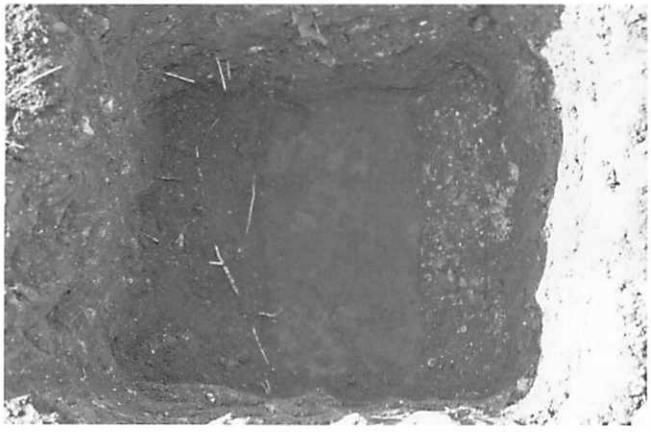


写真42　フェンス基礎④掘削状況（北東より）



4．（黒髪南他）理学部３号館南側実験廃棄物置場工事に伴う立会調査（1237）

＜調査期間＞

2013年２月27日

＜調査面積＞

9.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

本事業の工事は樹木撤去と表層剥ぎ取りからなる．樹木撤去は道路路肩に沿って幅0.75m，長さ12mの範囲を掘削する計画であった．最初工事範囲の西側半分を掘削したが，樹木の撤去は地表下0.25mまでの掘削で済み，掘削は表土内でとどまった．そのため西側半分を掘削した段階で，東側半分の掘削も埋蔵文化財に影響しないと判断し，慎重に工事を進めるよう指示した．遺物・遺構はなかった．

また表層剥ぎ取りも地表下0.1mの掘削で済むので埋蔵文化財に影響はないと判断した．遺物・遺構も確認されなかった．そこで立会を終了し，慎重に工事を行うよう指示し，立会を終了した．

写真43　調査区近景（東より）

写真44　樹木撤去作業状況（西より）

写真45　樹木撤去部掘削終了状況（西より）

5．（黒髪南）電気自動車車庫新営工事に伴う立会調査（1238）

＜調査期間＞

2013年２月28日

＜調査面積＞

11.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

掘削は車庫本体部分（9.3×5.3m）とその南に延びる幅0.65～0.8mの埋設管新設部分からなる．掘削が深い車庫本体基礎部分と埋設管新設部分の掘削に立ち会った．車庫本体基礎部分は1.5（ないし1.2）×2.0mの範囲を地表下0.6mまで掘削した．また埋設管新設部分は長さ14.3m・幅0.6～0.8mに対し，深さ0.8～1.0mまで掘削した．どちらも埋土内の掘削で終了した．遺構・遺物はなかった．

写真46　調査区近景（東より）

写真47　埋設管新設部分掘削終了状況（北西より）

写真48　車庫本体部分掘削終了状況（東より）

6.（黒髪南）工学部駐輪場工事に伴う立会調査(1240)

＜調査期間＞

2013年３月６日

＜調査面積＞

2.7㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

駐輪場の屋根を支える支柱設置のための掘削工事に立

写真49　Ａ地点近景（北より）

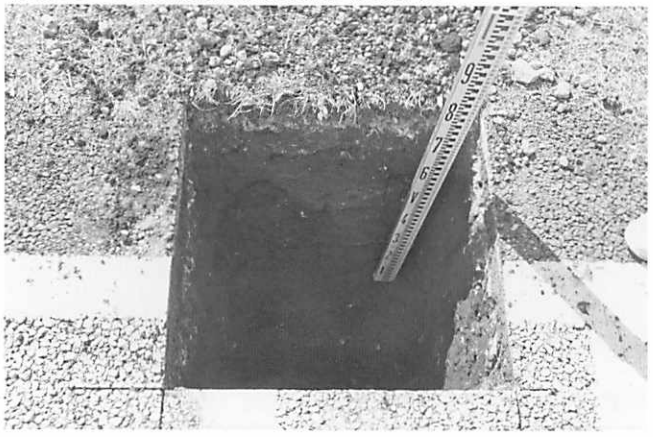
写真50　Ａ地点東端掘削終了状況（西より）

写真51　Ｂ地点近景（北より）

写真52　Ｂ地点西端掘削状況（南より）

写真53　C地点近景（南西より）

写真54　C地点東端掘削状況（北より）



ち会った．

共用棟黒髪３の北東に位置するＡ地点と，同北西に位置するＢ地点，工学部９号館北側に位置するＣ地点の３地点からなっていた．

Ａ地点は工事エリアの東西両隅と中央部の３箇所において0.55×0.55mの範囲の掘削に立ち会った．掘削深度はいずれも地表下0.65mまでで，全て埋土内の掘削で終了した．遺物・遺構は見つからなかった．

Ｂ地点も工事エリアの東西両隅と中央部の３箇所において0.55×0.55mの範囲２箇所，0.60×0.60mの範囲１箇所の掘削に立ち会った．掘削深度はいずれも地表下0.65mまでで，全て埋土内の掘削で終了した．遺物・遺構は見つからなかった．

Ｃ地点も工事エリアの東西両隅と中央部の３箇所において0.5×0.5m２箇所，0.5×0.7m１箇所の掘削に立ち会った．掘削深度はいずれも地表下0.65mまでで，全て埋土内の掘削で終了した．遺物・遺構は発見されなかった．

Ａ・Ｂ・Ｃ地点とも，立ち会った箇所の間に等間隔で同規模の掘削が行われるが，埋蔵文化財に影響はないと判断し，慎重に工事を進めるよう指示し，立会を終了した．

Ⅱ－3　本荘北地区　（図６・７参照）

１．（本荘北）本荘北地区駐車場配管工事（新設）に伴う立会調査（1203）

＜調査期間＞

2012年６月14日・15日・18日・７月９日・10日・10月15日・16日

＜調査面積＞

159.7㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

病院南西側の立体駐車場建設工事に先立ち，予定地内に存在する消火管・ガス管の位置を確認し，それを予定地外に切り回す工事に伴う立会であった.

６月14日から開始した医学部臨床研究棟南側（Ⅰ地点）の新設配管設置のための掘削は地表下0.8～1.0mに及んだ.本地点はおおむね地表下0.55mまでコンクリート・砕石等を含む埋土で，その下に暗褐色土が存在する所と，1.0mまで埋土の所があった.掘削は埋土ないし暗褐色土の中で収まった.この暗褐色土は旧耕作土の可能性が考えられた．既設ガス管部分では一部地表下1.5mまで掘削したが，ガス管埋設時の埋土の掘削で終わった.

今回の調査では東側掘削部分において，地表下0.8mで地業面が長さ５mにわたって確認された．端を切石で区画し，下底面を厚さ５cmのモルタルや円礫で固めていた.近代以降の何らかの施設の跡（事業面）と思われた.しかしそれ以外，遺構はなかった．また遺物は暗褐色土から近代の磁器がわずかに出土しただけであった.

７月９日・10日，医学部臨床研究棟の建物間からＴ字型に南に延びる配管を設置するための掘削に立会った.

写真55　調査区Ⅰ地点近景（南西より）

写真56　Ⅰ地点西側掘削終了状況（西より）

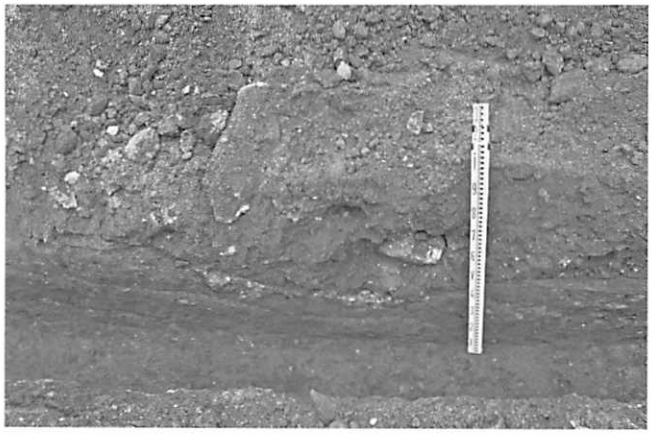
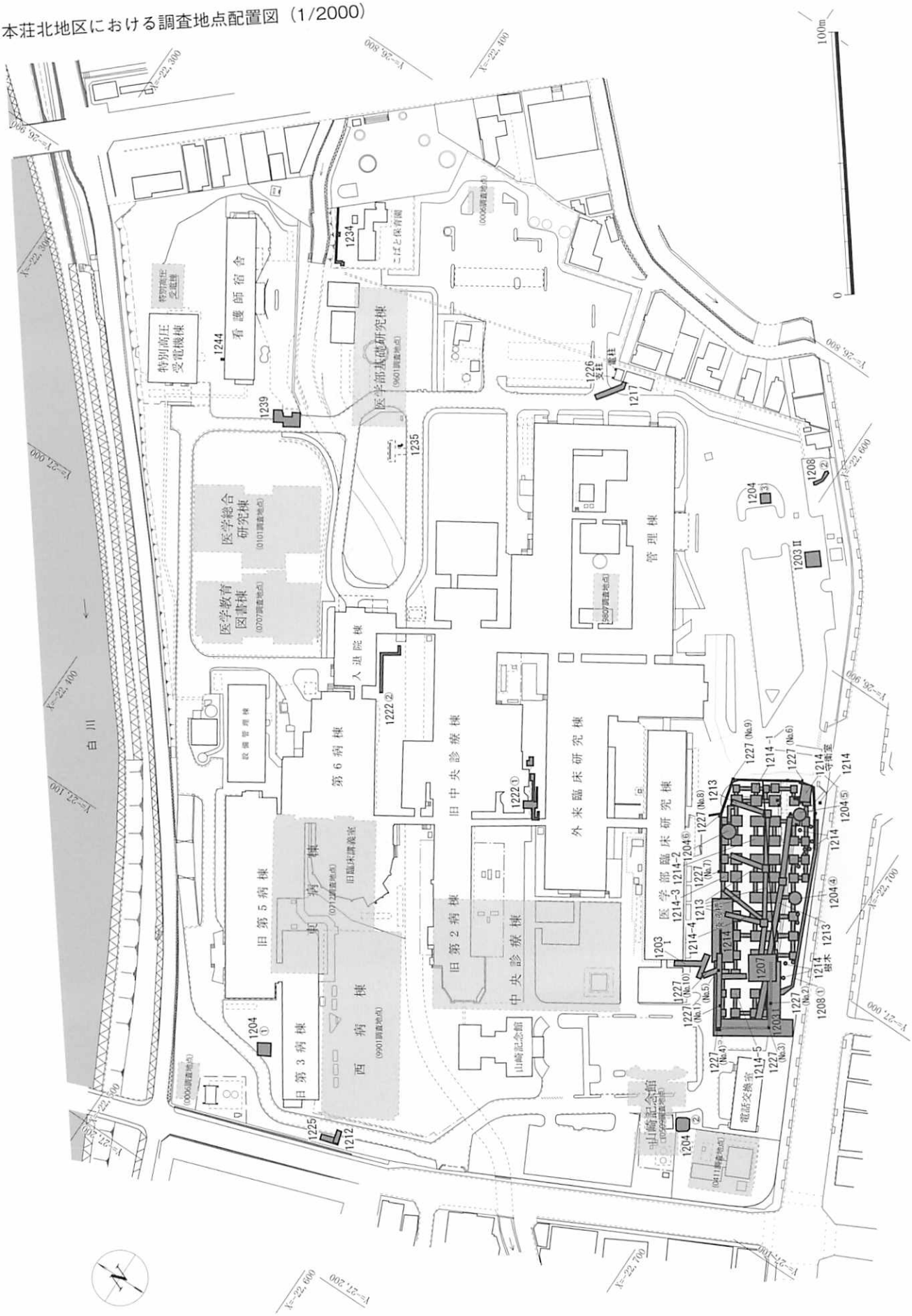


写真57　Ⅰ地点東側近代以降地業面検出状況（北西より）

写真58　Ⅰ地点北東側掘削終了状況（東より）

写真59　Ⅱ地点掘削終了状況（東より）

図6　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）



建物間は0.45～0.5m，他は0.8～1.0m掘削したが，全て埋土内であり遺構・遺物の検出はなかった．

10月15日・16日は既設管を止めるためⅡ地点の掘削に立ち会った．地表下1.4mまで掘削し，埋土・旧耕作土内の掘削で終了した。

2．（本荘北）樹木移植等工事に伴う立会調査（1204）

＜調査期間＞

2012年６月20日・29日・７月３日・26日・31日・８月６日・17日

＜調査面積＞

1360㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子

＜調査概要・結果＞

立体駐車場建設工事に先立ち，予定地内に存在する樹木を移植する工事に伴う立会調査であった．主に移植先の掘削３箇所（①・②・③地点），樹木の抜き取りの掘削３箇所（④・⑤・⑥地点）からなっていた．その他駐車場脇の花壇の掘削も行った．①地点は西病棟より北へ

写真60　①地点掘削状況（北東より）

写真61　①地点掘削終了状況（北より）

写真62　②地点掘削状況（南東より）

写真63　②地点掘削終了状況（南より）

写真64　③地点掘削状況（南より）

写真65　③地点掘削終了状況（南より）

15mの駐車場内であった．3.3×3.0mの長方形の範囲（9㎡）を深さ1.3mまで掘り下げた．当初は地表下2.0m掘削予定であったが，配管が検出されたため，当該深度となった．地表下0.15mまでは砕石，1.3mまでは埋土であった．②地点は山崎記念館の南側で，2.6×2.5mの隅丸方形の範囲を深さ1.2mまで掘削した．全て埋土であった．③は病院東側の駐車場の空きスペースで，1.8×1.7mの方形の範囲を深さ1.0mまで掘削した．これも埋土ないしは旧耕作土であった．

④地点は深さ1.5mまで掘削した．⑤地点は樹木を中心に0.9～1.2mの幅で深さ1.1mまで掘削した．⑥地点は直径1.5mの樹木を中心に幅0.9～1.2m，深さ0.7mまで掘削した．全て旧耕作土および埋土であった．

花壇は地表下0.2mまで掘削し，埋土内の掘削であった．

遺物は近代の磁器が少し出土したのみであった．遺構は検出されなかった．

写真66　⑤地点掘削状況（北東より）

写真67　⑤地点掘削終了状況（南より）

写真68　⑥地点掘削状況（東より）

写真69　⑥地点掘削終了状況（東より）

3．（本荘北）水銀指定基準超過区域土壌掘削除去に伴う立会調査・発掘調査（1207）

＜調査期間＞

立会調査：2012年６月29日・７月３日・４日・５日

発掘調査：2012年６月29日

＜調査面積＞

100㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子．

＜調査概要・結果＞

病院南西部の立体駐車場建設区域内に水銀が基準以上

写真70　掘削状況（北西より）

に含まれる土壌があり，その土壌の除去工事に伴うものであった．

6月29日，調査区東半を地表下1.8mまで下げた．地表下1.5mまでは暗褐色土が堆積していた．暗褐色土層中に近代の甕が存在した．

地表下1.5mで古代の包含層が出現した．ここで遺構確認を行ったが，遺構は検出されなかった．雨水桝（1×1m）を2箇所設置するため，工事エリアの南東部を地表下1.8mまで下げ，黄褐色土（地山）を確認した．この面で遺構確認を行い，溝状の落込みとピット2基を検出した．雨水桝設置範囲（約1.8×1.5m）は地表下2.0mまで掘削する必要があり，ピット2基のある部分は掘削が避けられないため，熊本市文化振興課に連絡し，発掘調査へ切替えを行った．

発掘調査は雨水桝設置範囲を対象に，6月29日に実施した．調査では2基のピットの掘削と記録を行った．1号ピットは0.33×0.3m・深さ0.08mの円形のもので，2号ピットは0.36×0.25m・深さ0.08mの楕円形のもので

写真71　雨水桝設置範囲遺構確認状況（東より）

写真72　雨水桝設置範囲遺構掘削終了状況（東より）

写真73　雨水桝設置範囲1号ピット完掘状況（南より）

写真74　雨水桝設置範囲2号ピット完掘状況（西より）

写真75　雨水桝設置範囲掘削終了状況（西より）

写真76　東半掘削状況（南より）

写真77　南西隅包含層確認状況（南より）

あった．覆土は共に黒褐色土（7.5YR3/2）であり，古代の可能性が考えられた．調査後は当該箇所を地表下2.0ｍまで下げて，雨水桝を設置した．遺物はピットからは出ていないが，周囲の包含層で土師器・須恵器片の存在を確認した．

７月３日は調査区東半の雨水桝設置範囲以外の範囲を掘削した．地表下２ｍまで掘削したところで，地山となった．地山上では古代の溝１条と住居址らしき遺構覆土を検出した．掘削は２ｍより下に及ばないということを確認して，立会・掘削を終了した．

７月４・５日は調査区西半を掘削した．南西隅で包含層を検出した．慎重に掘り下げたが，遺構は確認されなかったので，地表下２ｍまで掘削した．掘削は遺構検出面より上位で終始した．南側に住居址の可能性が高い箇所があるので，慎重に工事を進めるように指示して調査を終了した．

遺物は古代の土師器や須恵器が出土した．

４．（本荘北）立体駐車場支障配線替工事に伴う立会調査（1208）

＜調査期間＞

2012年７月９日・10日

＜調査面積＞

73.7㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

本荘北地区正門の左側（西側），駐車場の南側にフェンス沿いにある緑地帯の中に新たに配線する工事である．

①地点は門衛所から電話交換室の間にあるハンドホールの間約75ｍを掘削した．幅0.9ｍ，深さ0.8～0.9ｍで掘削したが，全て埋土内で遺構・遺物の検出はなかった．

写真78　作業風景（西より）

写真79　東側掘削状況（西より）

写真80　西側掘削状況（西より）

写真81　②地点作業風景（南西より）

また，外灯を東西２箇所で掘削したが，これらも１ｍ程度の掘削で遺構・遺物の検出はない．

②地点は正門東側，人・自転車用通用口の西側緑地帯で，ハンドホール間約7.5ｍを掘削した．幅１ｍ，深さは地表下0.85～0.9ｍの掘削である．ここも埋土内で収まり，遺構・遺物の検出はなかった．

写真82　北半掘削状況（南より）

５．（医病）西病棟西側道路陥没復旧工事に伴う立会調査（1212）

＜調査期間＞

2012年７月31日

＜調査面積＞

6.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎．

＜調査概要・結果＞

西病棟西側の道路陥没部分の復旧工事に伴う立会調査である．4.6×1.5ｍの範囲のアスファルトを剥いだ段階で、工事は終了した．遺構・遺物は検出されなかった．なお同箇所に対しては再度掘削工事が行われ，1225立会調査として実施した．

写真83　作業風景（北西より）

写真84　掘削終了状況（南西より）

６．（本荘北）本荘北地区駐車場既設配管工事に伴う立会調査（1213）

＜調査期間＞

2012年８月17日・20日

＜調査面積＞

468㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子．

＜調査概要・結果＞

病院南西部に建設する立体駐車場の建設予定地内にある既設配管の撤去工事に伴う立会調査である．配管10本と，それに接合する桝を除去する掘削を行った．また掘削の途中で新たな管１本と消火管が見つかったため，熊本市文化振興課へ連絡し，追加申請し，許可を得，対応した．管の長さは6.8～71ｍ，幅は1.5～2.0ｍ，深さは0.7～1.5ｍであった．掘削は旧耕作土または配管時の埋土の中で収まった．遺物・遺構は検出されなかった．

写真85　東側桝掘削作業風景状況（南西より）

写真86　消火管掘削作業風景（西より）

写真87　東側消火管掘削終了状況（南西より）

写真88　西側消火管掘削終了状況（東より）

7.（本荘北）立体駐車場新営その他工事に伴う立会調査（1214）

＜調査期間＞

2012年８月16日・17日・20日・９月５日

＜調査面積＞

224.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

病院南西部の立体駐車場本体工事およびそれに付随する工事に伴う立会調査である.

本体工事部分は，掘削深度が地表下約1.0mの掘削であったので，本年度既往調査の結果を参考に，基礎杭設置部分のうち５箇所について，掘削立会を行うことにした．基礎杭１個の大きさは３～５mのほぼ正方形をなす.

基礎杭1214－１・２・３・４はそれぞれ地表下1.0m・0.9m・1.1m・1.1mまで掘削し，掘削は旧耕作土内で収

写真89　基礎杭1214－１掘削終了状況（南西より）

写真90　東側樹木掘削風景（南東より）

写真91　東側樹木掘削終了状況（西より）

図7　1203·1204·1207·1208·1213·1214·1227 調査地点配置図（1/1000）

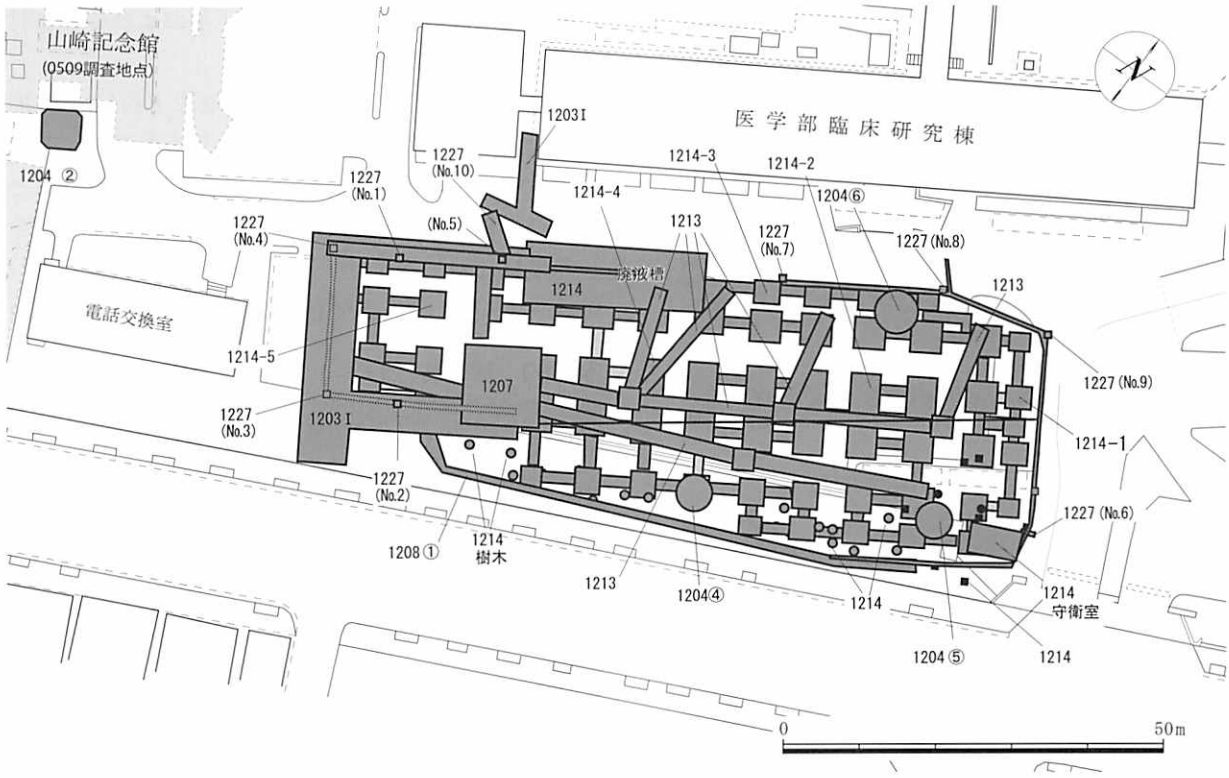


写真92　廃液槽掘削終了状況（南西より）

写真93　雨水管掘削終了状況（西より）

写真94　守衛室掘削終了状況（東より）

まった．1214－5は地表下0.8mまで掘削したが，掘削は撹乱土内であった．検出遺構はなかった．遺物は旧耕作土中より磁器・土師器などの小片が出土したのみである．それ以外の基礎杭設置箇所も，慎重に工事を進めるよう指示して立会を終了した．

その他の付随工事は南側の樹木伐採，配線・雨水管，廃液処理槽・守衛室解体掘削等であった．樹木伐採は22本の樹木の伐採に伴う掘削を行った．深さは最深でも1.1mまでで，掘削は旧耕作土内で終わった．配線・雨水管は深さ0.7～0.8m掘削したが，掘削は旧耕作土内であった．廃液処理槽は廃液槽周りの幅1.8mの範囲を地表下1.0mまで掘削した．守衛室は守衛室内部の一部を地表

下1.0mまで掘削した．ともに埋土中で掘削は終わった．廃液処理漕・守衛室は地表下1.0mまでの取り壊しとなるので，取り壊しは全域的に埋蔵文化財に影響はしないと判断した．その他，工事エリアの東端において，水道管プラグ止めのため，２箇所を1.0，1.3mまで掘削したが，埋土内のみの掘削で収まった．以上の箇所では遺構・遺物の検出はなかった．

８．（医病）駐車場整備員控室改修機械設備工事に伴う立会調査（1217）

＜調査期間＞

2012年８月30日

＜調査面積＞

4.1㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

駐車場整備員控室から近隣の道路にある排水桝へ，排水管を通す工事である．繋ぎこむ桝の周辺は地表下0.7mまで掘削したが，桝設置時の掘り方内である．桝から歩道縁石までは地表下0.6mの掘削を行ったが，いずれも埋土内であった．縁石付近で撤去不可の障害物が検出されたため，掘削深度を浅くせざるをえず，地表下0.35mまでとした．駐車場整備員控室から歩道縁石間も0.35mの掘削で埋土内であった．遺構・遺物の検出はない．

写真95　作業風景（南より）

写真96　北半掘削状況（南東より）

写真97　南半掘削状況（北西より）

９．（医病）外来診療棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1222）

＜調査期間＞

2012年９月20日・21日

＜調査面積＞

40㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

既設用水路（暗渠）の南側を①地点，北側を②地点とした．

①地点は連絡棟２の東側に位置する．既設ガス管撤去のための掘削地点と新規配管のための掘削地点からなっていた．既設ガス管撤去のための掘削地点は連絡棟２の東壁から東へ６ｍの箇所と，東へ23mの箇所があった．

写真98　①地点近景（東より）

写真99　①地点掘削終了状況（南より）

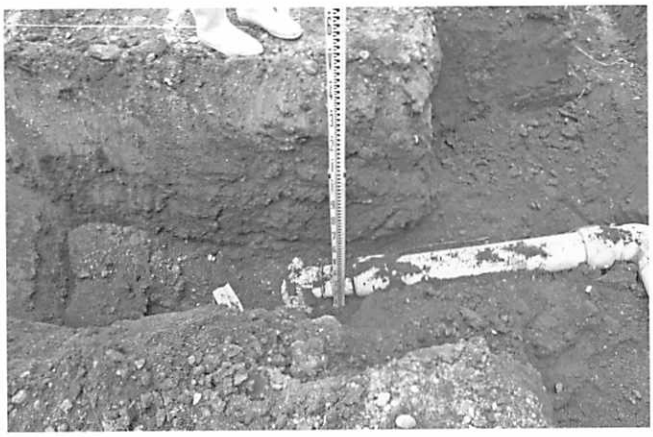


写真100　②地点掘削風景（東より）

写真101　②地点南東部掘削状況（東より）

東６ｍの箇所は南北に並ぶ2.2×1.1ｍと2.0×2.0ｍの掘削範囲およびその間の1.8×0.9ｍのトレンチからなり，深さ1.0ｍまで掘削した．東23ｍの箇所は4.0×2.5ｍの範囲をＬ字形に，深さ1.4ｍまで掘削した．当初は小規模に掘削する予定であったが，管への接続が難しく東へ拡張し，このような形となった．埋土内の掘削で済んだ．新規配管のための掘削は幅0.5ｍ，総延長（東西）約20ｍに及ぶ．連絡棟から９ｍ東の4.6×0.5ｍの範囲と，同棟から３ｍ東の1.5×1.2ｍの範囲を深さ0.6ｍまで掘削した．後者は届出の範囲外であったため，熊本市文化振興課へ

写真102　②地点北部掘削終了状況（東より）

追加申請してから対応した．掘削は全て埋土内で済み，遺構・遺物は検出されなかった．新規配管掘削はそれ以外の箇所もあるが，掘削を行っても埋蔵文化財に影響しないと判断し，工事を慎重に進めるように指示した．

②地点は旧救急棟の南側に位置し，既設コンクリート桝の間を幅0.7～1.0ｍ・長さ12.5ｍのクランク状に掘削するものであった．北部は地表下1.6ｍまで掘削したが，全て埋土であった．南部のうち，南東端は地表下0.7～0.8ｍまで掘削し，埋土と旧耕作土が検出された．南西端は地表下0.7ｍまで掘削し，撹乱のみであった．南西端は途中の深さまでしか掘削できず来年度改めて下を掘削する予定である．北部と南部の中間（南東部）は砕石の下，地表下0.4～1.3ｍまで旧耕作土が堆積しており，1.3ｍ以下では暗褐色土がある部分と，旧耕作土が下まで連続する部分があった．暗褐色土は何らかの落ち込みの覆土か，単なるブロックか，明らかにできなかった．また旧耕作土の下では地表下1.6ｍで黒色砂が帯状に存在し，その下が地山になっていた．地山の上に包含層がないことから遺構の可能性が考えられた．遺物は出土しなかった．なお2012年度は当該工事に係る掘削工事の約半分が実施された．残りは2013年度に実施予定である．

10.（医病）西病棟西側地盤改良工事に伴う立会調査（1225）

＜調査期間＞

2012年11月９日

＜調査面積＞

31.6㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

西病棟西側の道路陥没箇所の地盤改良工事に伴う立会調査である．東側の掘削範囲は幅2.8ｍ・長さ3.3ｍ，西

側の掘削範囲は幅2.7m・長さ8.3mで，両方合わせるとL字状の平面形をなしていた．深さ0.7～0.75mまで掘削したが，埋土内であった．遺構・遺物の検出もなかった．

写真103　調査区近景（南より）

写真104　東側掘削終了状況（南東より）

写真105　西側掘削終了状況（南より）

11.（医病）外来診療棟新営電気設備工事に伴う立会調査・発掘調査（1226）

＜調査期間＞

立会調査　2012年11月13日

発掘調査　2012年11月13日

＜調査面積＞

2.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

外来診療棟新営工事に伴う電柱設置工事に伴う発掘調査である．

車庫の北辺に隣接して，支線アンカー杭（支柱杭）新設用の1.0×1.0mの範囲の掘削と，コンクリート電柱新設用の1.5×0.8mの範囲の掘削を行った．

写真106　調査区近景（北東より）

写真107　支柱杭部分掘削終了状況（北より）

写真108　電柱部分包含層検出状況（北より）

支柱杭部分は深さ1.0mまで掘削した．上位0.6mは砕石，その下0.4mは旧耕作土と考えられる暗褐色土が堆積していた．遺構・遺物は検出されなかった．

コンクリート電柱部分は全域を深さ1.0mまで掘削し，更に東端の0.45×0.8mの部分は深さ2.1mまで掘削した．地表下0.5mまでは全面的に砕石を多く含む土であったが，地表下1.1mまでは暗褐色土（旧耕作土を含む）が堆積し，その下に黒褐色土が確認された．黒褐色土は遺構の覆土の可能性が考えられたため，熊本市文化振興課に連絡し，発掘調査に切り替えた．

発掘調査はコンクリート電柱部分の黒褐色土が存在する箇所を対象に実施した．黒褐色土は1.1m～1.6mまでの間に存在しており，その下底は硬い褐色土の地山となっていた．黒褐色土と地山の層界は明瞭で，黒褐色土は遺構の覆土の可能性が考えられた．しかし狭小な面積の調査であったため，黒褐色土を覆土にもつ遺構がどのような遺構であるのかは明らかでなかった．

また褐色土の地山の下にも工事の掘削は及ぶため，その下の掘削にも立ち会った．その結果，地山の下では，地表下2.1mで褐色砂質土が確認された．遺物は出土しなかった．

写真109　電柱部分地山検出状況（北より）

写真110　電柱部分掘削終了状況（北より）

12.（本荘北）立体駐車場新営その他工事（追加）に伴う立会調査（1227）

＜調査期間＞

2012年11月19日・20日・21日

＜調査面積＞

27.6㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

病院南西部の立体駐車場新営工事に伴う雨水桝とそれを繋ぐ埋設配管，駐輪場柱基礎設置などの工事に伴う立会調査である．

掘削は最深1.2mで，周辺の立会結果からして包含層や遺構が出る可能性は低く考えられたので，10箇所（№1～10）に限って掘削立会を行った．

№1は工事エリアの北西部にある配管部の掘削（0.7×3.8m，深さ1.1m）および雨水桝用の掘削（0.7×1.5m，深さ1.2m）であった．掘削は撹乱・埋土内で収まった．№2は工事エリア南側の雨水桝用の掘削（1.5×1.1m，深さ1.3m）であった．地表下0.9mで旧耕作土が現れ，それを0.4m掘削した．№3は工事エリア南西隅の雨水

写真111　№1掘削風景（西より）

写真112　№1掘削終了状況（西より）

桝用の掘削（1.1×1.5m・深さ1.1m）であった．№4は工事エリア北西部の雨水桝用の掘削（0.9×1.0m・深さ1.1m）であった．№3・4は埋土内の掘削であった．№5は北側の雨水桝用の掘削（1.7×1.0m・深さ1.3m）であった．地表下0.6mまでは砕石多い土，その下から地表下1.3mまでは埋土であった．また№1と№5の間の配管用の掘削にも立ち会ったが№5と同じ様相をもっていた．№6は工事エリア南東部の雨水桝用に1.6×0.9m・深さ0.84m掘削したもので，地表下0.44mまでは砕石が多い土，それ以下は埋土または旧耕作土であった．№7～9は工事エリア北東部の雨水桝用の掘削であった．№7は1.2×1.1m・深さ0.9m，№9は1.4×1.0m・深さ1.0mの掘削で，地表下0.4mまでは砕石多い土が存在し，その下には埋土ないしは旧耕作土があった．№8は地表下0.95mまでは砕石が多い土が存在し，その下には埋土ないしは旧耕作土があった．№10は北西部の配管用に6.4×0.7m・深さ0.8～1.2m掘削したものであった．計画では1.2mまで掘削する予定であったが，既設管が出たため，北側の掘削は0.8mと浅くなった．地表下0.4mまでは撹乱で，その下に埋土または旧耕作土がある箇所があった．遺構・遺物は検出されなかった．

写真113　№2掘削終了状況（南より）

写真114　№3掘削終了状況（北より）

写真115　№4掘削終了状況（北東より）

写真116　№5掘削終了状況（東より）

立会を行わなかった範囲はいずれも掘削深度は1.0mよりも浅く，埋蔵文化財に影響を及ぼさないと判断されたため，慎重に掘削を続けるように指示をし，立会を終了した．

13.（医病）医学部駐輪場取設工事に伴う立会調査・発掘調査（1234）

＜調査期間＞

立会調査　2013年2月21日・22日

発掘調査　2013年2月21日・22日

＜調査面積＞

24.1㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

医学部駐輪場の屋根の設置工事に伴う立会調査である．工事は駐輪場の既設外灯撤去部分・移設先の掘削，支柱部分の掘削，配線部分の掘削からなり，2月21日から立会を実施した．

既設外灯撤去部分は1.4×1.4mの範囲を深さ0.9mまで

掘削した．外灯は更に深くまで埋め込まれており，引き抜いた．引き抜き後の底面は地表下1.4mであった．掘削は埋土内の掘削で収まった．遺構・遺物は検出されなかった．

外灯移設先は最西端に位置していた．1.5×1.5mの範囲を掘削した．地表下には埋土が存在したが，地表下0.8mで土質が変わり，同0.9mで３基の土坑が確認できた．そこで２月21日，熊本市文化振興課へ連絡して発掘調査へ変更した．

駐輪場支柱部分は幅1.0m・長さ21.0mの範囲を地表下0.7～0.8mまで掘削した．掘削は埋土内で終わった．配線部分は駐輪場支柱部分と外灯移設先部分を繋ぐ場所にあり，幅0.2m・長さ1.5mの範囲に，地表下0.6mに底面をもつトンネルを掘削した．埋土内の掘削で済んだ．遺構・遺物は検出されなかった．

発掘調査は，外灯移設先で検出された３基の土坑を対象とするもので，立会調査と平行して２月21日・22日に実施した．

写真117　調査区近景（西より）

写真118　外灯撤去部分掘削状況（東より）

写真119　外灯撤去部分外灯撤去作業状況（南東より）

写真120　外灯撤去部分掘削終了状況（東より）

写真121　駐車場支柱部分掘削終了状況（西より）

写真122　配線部分掘削終了状況（南より）

調査した土坑はいずれも方形をなすもので，掘り込みは垂直であった．北側に２基，南側に１基存在した．北東の土坑を１号，北西の土坑を３号土坑とし，南側の土坑は２号土坑とした．北側の２基（１・３号土坑）は切り合っていたが，１号土坑が３号土坑を切っていた．３基の土坑からは人骨は出土していないが，隣接する1104調査地点では墓壙が多数検出されていることから，これら３基の土坑も墓壙である可能性が考えられた．土坑は深く，工事掘削底面レベルである地表下1.4mより下まで続いて存在していた．今回の工事の掘削はそれ以下には及ばないので，遺構の調査は終了とした．

写真123　外灯移設先掘削作業状況（南より）

写真124　外灯移設先遺構確認状況（東より）

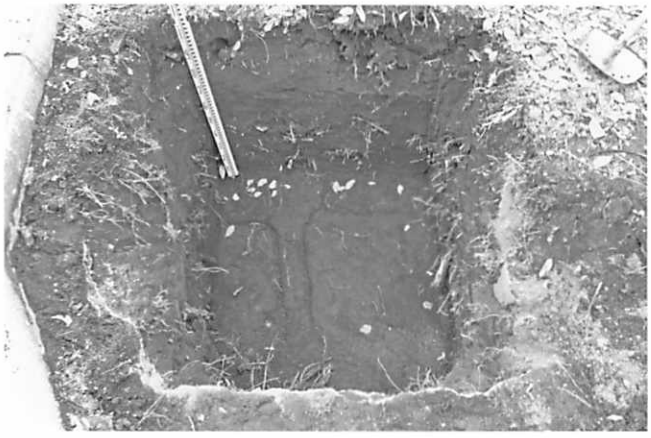


写真125　外灯移設先１・２号土坑掘削終了状況（東より）

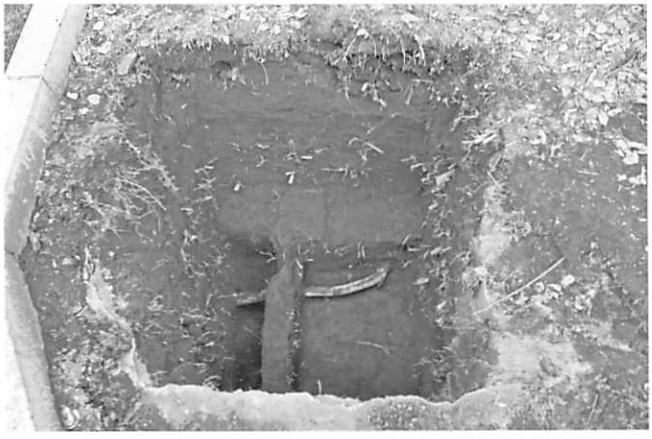
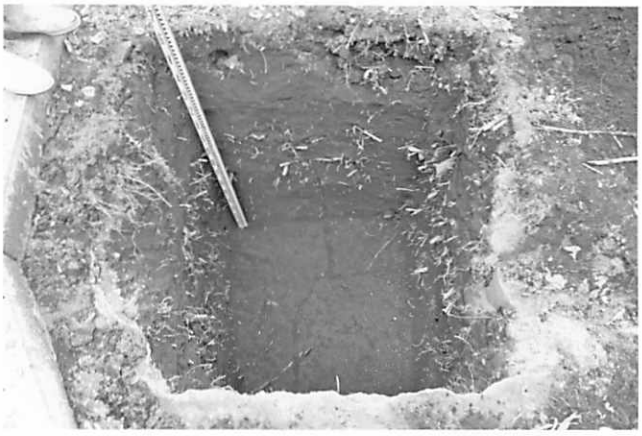


写真126　外灯移設先遺構掘削終了状況（東より）

写真127　外灯移設先掘削終了状況（東より）



遺構以外の箇所には包含層が存在した．包含層上面で遺構確認をしたが，遺構は検出されなかった．そこで包含層を工事掘削底面である地表下1.4mまで掘削した．包含層は下部で黒味を増しており，遺構の可能性も考えられたが，狭い範囲であり，断定はできなかった．遺物は土師器・須恵器と，近世以降の磁器が出土した．

14.（医病）構内ガス管緊急補修工事に伴う立会調査（1235）

＜調査期間＞

2013年２月21日

＜調査面積＞

1.1㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

ボーリング掘削中に破損したガス管の緊急補修工事であった．ガス管に沿い，0.7×1.7mの範囲を地表下1.0mまで掘削した．ガス管設置時の山砂を主体とする埋土を

掘削して終了した.

遺構・遺物は検出されなかった.

写真128　調査区近景（南より）

写真129　掘削断面（南より）

写真130　掘削終了状況（南より）

15.（医病）構内ガス管緊急補修工事に伴う立会調査（1239）

＜調査期間＞

2013年３月５日

＜調査面積＞

8.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

ガス漏れを起こしているガス管を検出し，そのガス管を補修する工事に伴う立会調査である．３箇所（南・中央・北部分）の掘削を行った.

南部分はガス漏れを起こしているガス管があると思われる箇所を中心に1.9×1.1mの範囲を地表下1.5mまで掘削した．地表下0.7mまでは砂を多く含む埋土，同1.5m

写真131　調査区近景（北西より）

写真132　南部分掘削作業状況（東より）

写真133　南部分掘削終了状況（南より）

までは暗灰色砂が存在した．この段階で検出されたガス管は新しいガス管で，ガス漏れを起こしている管ではなかった．更に下に砂層が続いておりガス漏れを起こしている管が存在する可能性があったため，一部地表下2.1mまで掘削した．地表下1.5～2.1mまでは暗褐色砂が存在していた．結局ガス漏れを起こしているガス管は見つからなかった．暗灰色砂は砂層中に石を含んでおり，暗褐色砂もラミナはなく攪拌を受けた感じで，埋土の可能性が考えられた．

中央部分は2.5×1.3mの範囲内に平面形L字状に掘削した．掘削深度は1.0～1.25mである．当箇所はガス漏れを起こしているガス管と新しいガス管，U字溝など配管が多く，掘削は砂を多く含む埋土の中で収まった．遺物・遺構はなかった．

北部分はガス漏れを起こしたガス管の継手を探す目的で掘削した部分である．1.8×1.5mの範囲を地表下1.4mまで掘削した．地表下0.6mまでは砕石・レンガが混じる砂の多い埋土，同1.4mまでは暗灰色砂が存在した．この暗灰色砂は既設管の掘り方より古い砂であるが，南部分の暗灰色砂と同様の理由で埋土の可能性が考えられた．遺物・遺構は検出されなかった．

写真134　中央部分掘削終了状況（南東より）

写真135　北部分掘削終了状況（南より）

16.（本荘北）看護師宿舎１階院内保育園改修機械設備工事に伴う立会調査（1244）

＜調査期間＞

2013年３月26日

＜調査面積＞

1.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

看護師宿舎内保育園改修に伴い，宿舎内から屋外のマンホールに配管を設置するための工事に伴う立会調査である．

看護師宿舎の北側のマンホールの東隣に1.2×1.2mの範囲を掘削し，更に宿舎際のコンクリート（犬走り）の下をえぐって0.8×0.55mの範囲を掘削した．最大深度0.85mまで掘削したが，全て埋土であった．遺構・遺物は検出されなかった．

写真136　調査区近景（西より）

写真137　掘削作業状況（西より）

写真138　掘削終了状況（南より）

Ⅱ－４　本荘中地区　（図８参照）

１．（本荘中）医学部基礎研究棟（Ｂ棟東側）とりこわし工事に伴う立会調査・発掘調査（1205）

＜調査期間＞

立会調査：2012年６月19日～７月19日

発掘調査：2012年６月25日～７月19日

＜調査面積＞

756㎡

＜調査員＞

松田光太郎・大坪志子・石丸恵利子.

＜調査概要・結果＞

６月19日より医学部基礎研究棟（Ｂ棟東側）とりこわし工事に伴う立会調査を開始した．当調査は54×14mの東西に長い長方形の建物の撤去に伴う立会であった．基礎研究棟Ｂ棟は地下室をもつ建物で，地下室下底までは，全面的に削平されていると思われるが，隣接調査地点（0314・1130調査地点等）の調査データーから，その下のフーチング（基礎）とそれに付着するコンクリート製梁の間の空間には遺構が残存している可能性が想定された．そこで工事ではフーチングの上端（地表下約1.5m）までは全面的に掘削し，その後，フーチングを撤去する掘削工事に立ち会った．フーチングと梁によって工事範囲は44個の区画に分けられるが，その各区画内には遺構の地山となりうる黄褐色の砂質土が存在した．この砂質土は地表下1.8m付近で検出され，それより上位は撹乱・埋土であった．それぞれの区画を，１個ずつ立会調査していたが，６月25日，砂質土を掘り込んだ遺構が検出された．そこで熊本市文化振興課へ連絡し，調査を発掘調査に切替えて実施することになった．工事エリア内においては工事による掘削も断続的に行ったため，立会調査と発掘調査を併行して実施した．

立会調査時の遺構確認の結果，東西に長い調査区の中央を北東－南西方向に向かって斜めに横断する形で，大きな溝が存在することが明らかになった．また調査区外周に関してであるが，調査区西側は1130調査地点と接し，埋土となっていた．北側については６月29日，建物北側の掘削の幅を確認するため，北壁北側の３箇所を重機で掘削した．掘削は埋土だけの掘削で止めなければならなかったが，的確に指示を行わなかったため、その下の土も掘削し，包含層・遺構を毀損してしまった．壁建設時の掘削は壁から北側へ幅約0.6m存在しているだけであった．本件については７月５日，埋蔵文化財調査センターより熊本市教育長宛て文書で報告し，７月６日に熊

図８　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）

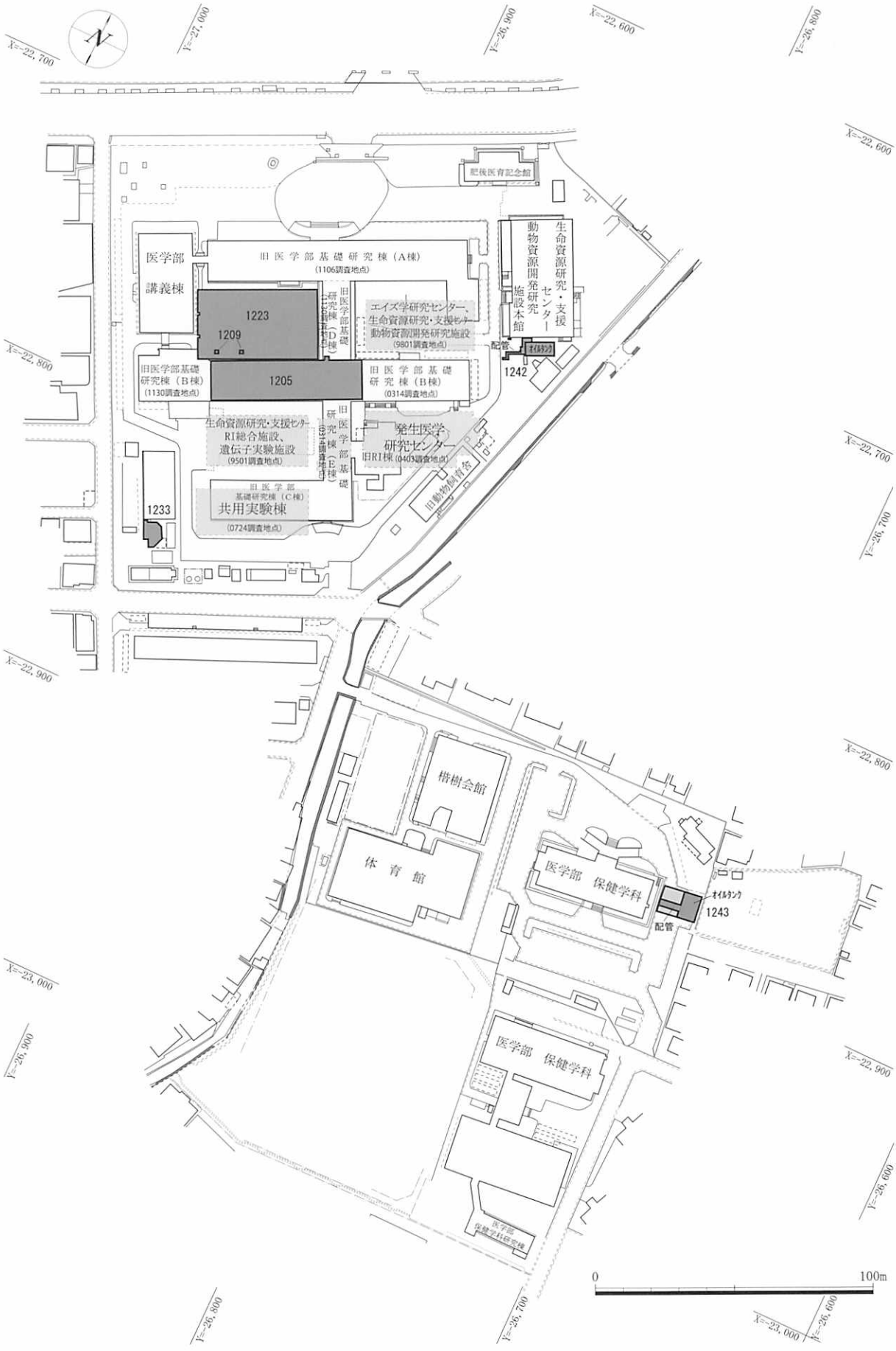


写真139　調査区近景（西より）

写真140　北側遺構検出状況（北より）

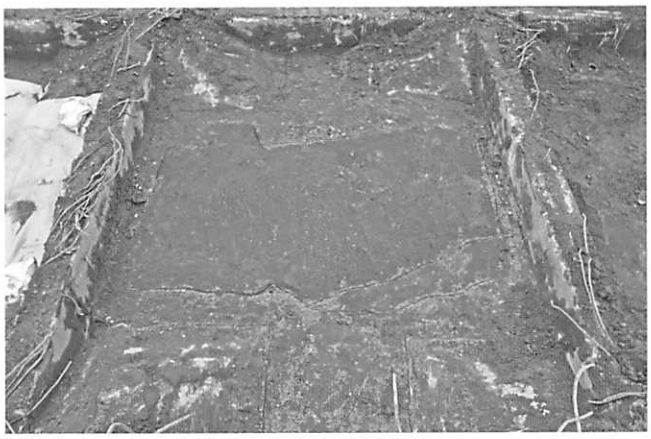
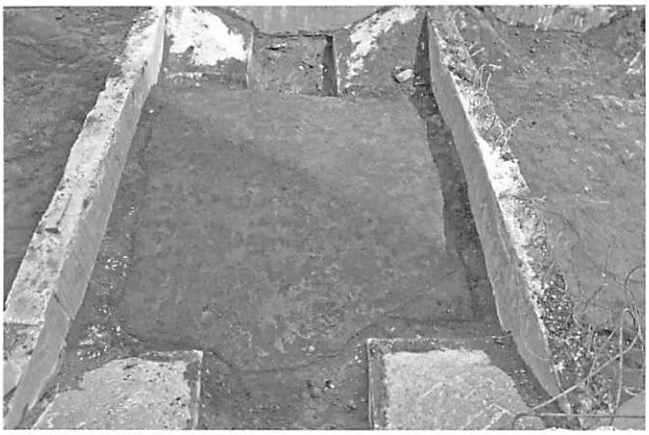


写真141　南側遺構検出状況（南より）



本市職員による現地確認が行われた．調査区東側および南側の壁に関しては撤去対象ではなかったが，南壁は地表下0.3mまで壁を壊す工事を実施した．埋土内の掘削で収まった．

発掘調査では遺構の調査を行った．調査した遺構は溝とピットからなっていた．前述の溝（１号溝）の規模は最大幅4.2m，長さ36.2m，深さ0.6mを測る．溝はテラスをもつ構造をなすが，西側のテラスが広い範囲に存在した．溝の南西部は方向を西南西にとる浅い溝となっていた．この溝の覆土は暗褐色土であった．隣接する調査地点である9801地点の３号溝，9511地点の30号溝とつながるものと推測される．溝は北から南に向かって緩やかに傾斜していた．遺物から，本溝は16世紀末～17世紀を中心とする時期の所産と判断された．

この溝を上流に延長すると二の井手用水路と交差することから同用水路との関連が推測された．またこのほか長さ0.6m，1.4mの小規模の溝が２条，調査区中央南側に存在した（２号溝・３号溝）．このうち３号溝は１号溝と交差していた．２・３号溝の覆土は共に１号溝に類

写真142　調査区全景（南より）

写真143　１号溝（北側）掘削終了状況（南西より）

写真144　１号溝（南側）掘削終了状況（北東より）

似するものであったが，遺物は出土しなかった．また１号溝と重複し、深さが１号溝より深い溝（４号溝）が存在した．

ピットは５基確認された．２基は調査区の東側，３基は調査区の南西側に存在した．東側の２基は黒褐色土を覆土とし，古代の可能性が想定された．南西側の３基は暗褐色土を覆土にもち，１号溝と重複していた．平面形は全て小形の円形ないし隅丸方形を基調とするものであった．発掘は７月19日に終了した．

遺物は古代の土師器・須恵器・瓦，近世の陶磁器等が小コンテナ２箱分出土した．

２．（本荘中）医学部基礎研究棟Ｂ棟漏水処置に伴う立会調査（1209）

＜調査期間＞

2012年７月６日・９日・13日

＜調査面積＞

9.7㎡

＜調査員＞

松田光太郎．

＜調査概要・結果＞

医学部基礎研究棟Ｂ棟とりこわし工事中に発生した漏水の処置工事に伴って実施した立会調査である．漏水箇所とその西側6.5mにあるプラグ止め箇所の２箇所からなっていた．漏水箇所は，3.5×2.3mの範囲を深さ1.0mまで掘削した．地表下0.9mで古代の包含層が検出されたが，掘削は配管の埋土の範囲内に限定して行われた．

プラグ止め箇所は1.7×1.8mの範囲を深さ最深で1.4mまで掘削した．地表下0.4mまでは砕石，0.8mまでは埋土であった．その下は，管の掘り方内は埋土，その脇には旧耕作土が存在した．掘削は基本的には埋土を対象としたが，作業上，旧耕作土を地表下1.2mまで掘削した

写真145　漏水箇所掘削状況（北より）

写真146　プラグ止め箇所西壁掘削終了状況（東より）

箇所がある．その下には古代の包含層が存在したが，掘削は及ばなかった．

両箇所とも遺構・遺物は確認されなかった．

３．（本荘中）国際先端医学研究拠点施設新営工事に伴う立会調査・発掘調査（1223）

＜調査期間＞

立会調査：2012年９月26日～11月16日

発掘調査：2012年10月１日～12月18日

＜調査面積＞

1059㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

国際先端医学研究拠点施設新営工事に関しては９月26日から埋土の掘削（一次掘削）と配管・コンクリート等撤去工事に伴う立会調査を実施し，その後10月１日から発掘調査を実施した．しかし埋土の一次掘削は10月１日までかかり，配管やコンクリートの撤去は，調査区西側に限り11月16日まで断続的に併行して実施した．

写真147　一次掘削風景（東より）

写真148　東側配管撤去状況（北西より）

埋土の一次掘削は北東側の地盤を基準に地表下0.85m付近まで掘削した．北側は埋土が厚く，地表下0.15mまでは砕石，同0.8mまでは埋土，その下に旧耕作土があり，掘削深度は一部地表下0.9～1.0mに達したが、埋土または旧耕作土上部までの掘削で収まった．南側は地表面が下がっているので地表下約0.6mまで掘削した．調査区東側は埋土中の配管やコンクリートブロックも撤去した．３箇所浄化槽が存在したが，深さが深いので除去せず，残置した．

西側は使用中の配管が存在し，切り回しを必要としたため，調査区東側の発掘調査と併行して配管撤去工事に伴う立会調査を実施した．まず10月11日，調査区西際付近を南北に走る配管を調査区西壁際に移動するための掘削を開始した．掘削は北壁を起点に幅0.5～0.7m，長さ19mの範囲を対象とするもので、調査員立会のもと行うことになっていた．しかし調査員不在の状況下で掘削が行われ，掘削部南端0.8×1.3mの範囲において，地表下0.95～1.35mの間に存在した包含層を削ってしまった．この毀損事故を受け，配管撤去工事は約２週間中断した．

その後，同工事は10月26日に再開した．調査員立会のもと，地表下0.95mまで掘削したところ，北側で包含層が検出されたので，遺構確認を行った．包含層は北側のみに存在し，南側は埋土となっていることが確認された．その後，配管のために当該範囲を地表下1.1mまで掘削した．包含層中では遺構の存在は確認されず，掘削は終了し，その後配管工事が行われた．配管は浅かったため、その下に包含層が残る形となったが、配管下の包含層は発掘調査の際に調査した．

また10月26日，調査区南西部壁際（南西角より５ｍ北）において，水道管のプラグ止めのために，1.8×1.7ｍの範囲を地表下1.6mまで掘削が行われた．掘削したのは埋土のみであったが，その直下に黄色土を検出した．遺構は存在しなかった．

また10月29日，プラグ止め箇所の北隣2.0×1.2mの範囲に対し，深さ1.25mまで配管の掘削が行われた．既設配管による撹乱が著しく掘削は埋土内で終わったが，西壁では，地表下0.85mまで埋土，同1.05mまで旧耕作土，同1.25mまでは包含層が存在することを確認した．掘削底面に遺構状の落ち込みを検出した．（この落ち込みは発掘調査で調査し，撹乱に類するものと土坑の一角であることが判明した．）また同日そこから南西に所在する

写真149　西側配管路掘削状況（南より）

写真150　西側桝撤去掘削状況（南より）

写真151　調査区東側全景（南より）

桝にかけて幅0.7m・長さ4.4mのクランク状の範囲を一次掘削面まで掘削し，埋設管の上端を検出した．その後埋設管は撤去した．既設桝の部分は11月16日，1.9×1.9mの範囲を地表下1.7mまで掘削した．大半は埋土であったが，掘削断面において黄褐色シルト層を検出した．その後桝を撤去した．遺構・遺物はなかった．

発掘調査は10月１日から行った．遺構としては古墳時代後期～奈良・平安時代，近世の溝18条，古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居址29軒，掘立柱建物址１基，土坑11基，ピットなどを調査し，12月18日に終了した．このうち古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居址は６世紀末から８世紀に及んでいたが，６世紀末から７世紀のものが最も多く，８世紀になると減少する傾向が捉えられた．また掘立建物址は９世紀末から10世紀初めに属するもので，主軸は託麻郡の条里の方向（N-５°-W）と一致していた．近世では大溝を２条，またその一部を１条検出した．前者は主軸方向をほぼN-50°-Wにとり，長さ25m程が検出された．

遺物は縄文時代の土器・石器，古墳時代後期～平安時代の土師器・須恵器・鉄器，近世の陶磁器・土製品・獣骨などが出土し，その量は深コンテナ約12箱に及んだ．

写真152　調査区西側全景（南より）

写真153　竪穴住居址竈遺物出土状況（南東より）

写真154　竪穴住居址掘削状況（南より）

写真155　掘立柱建物址柱穴半截断面（東より）

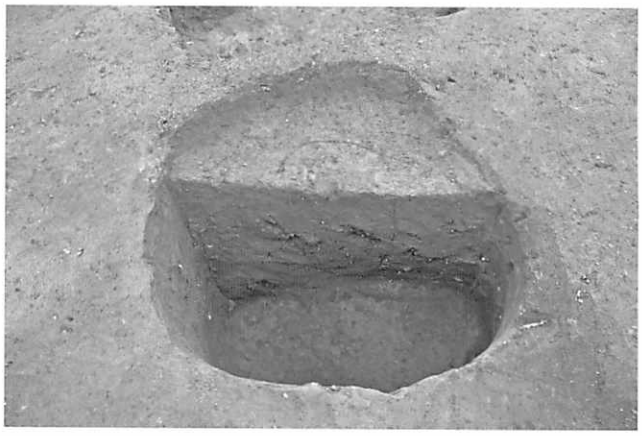


写真156　溝掘削状況（南東より）

４．（本荘中）医学部旧ボイラー室煙突撤去工事に伴う立会調査・発掘調査（1233）

＜調査期間＞

立会調査：2013年２月７日・８日

発掘調査：2013年２月８日・12日・13日

＜調査面積＞

9.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司.

＜調査概要・結果＞

煙突は基礎撤去以前に既に撤去してあり，２月７日・８日，煙突の基礎であるフーチングの撤去に伴う掘削に立会った.

フーチングの存在する部分はフーチング上面まで掘削した．フーチングの周縁にはフーチングの埋設時の埋土が幅0.25～0.45m存在していたが，その外側には包含層が残存していた．フーチングの北側では地表下1.3mまで表土・撹乱，同1.5mまでは埋土または旧耕作土，同1.95mまでは包含層が存在し，それ以下は黄褐色砂質土に移行することがとらえられた．しかしフーチング埋設時の埋土の幅が0.45mと広かったため，掘削は埋土内で収まった．最北端部は地表下2.8mまで埋土で，下には北側に存在するボイラー室の基礎が存在していた．フーチングの南側は2.3×1.0mの範囲を地表下1.5mまで掘削した．掘削は旧耕作土中で収まった．フーチングの東側

写真157　調査区近景（南東より）

写真158　掘削作業状況（北東より）

写真159　フーチング北側断面（南より）

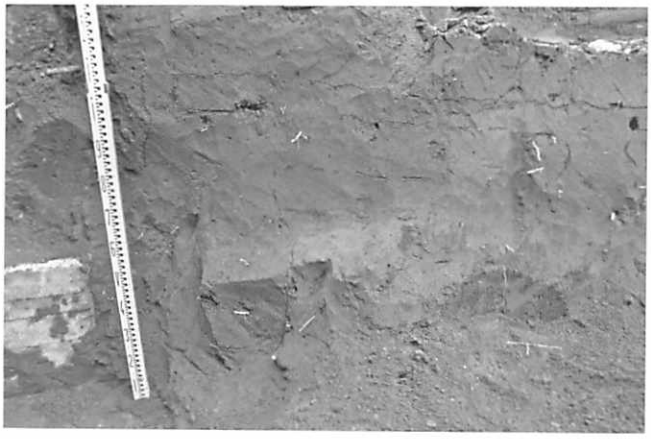


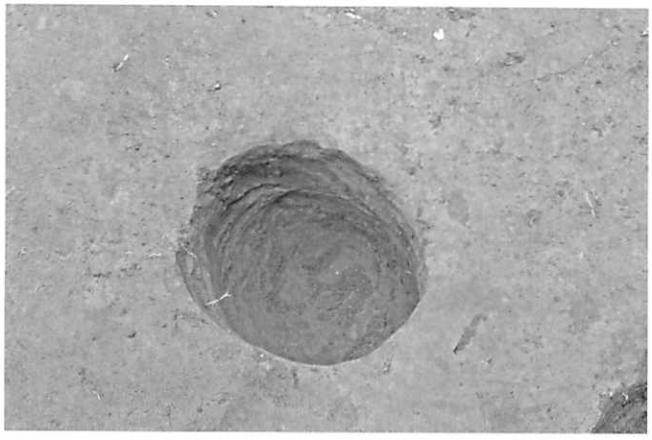
写真160　調査区北東部掘削終了状況（南東より）

写真161　遺構確認状況（北より）

写真162　遺構掘削終了状況（北より）

写真163　落ち込み完掘状況（北より）

写真164　ピット完掘状況（東より）



はフーチング埋設時の埋土に沿ってその外側２ｍ幅の範囲を地表下２ｍまで掘削した．当該部分は地表下1.3mまで撹乱があり，1.5mまでは埋土ないしは旧耕作土があり，その直下は包含層に至っていた．包含層上面で遺構確認を行ったが，遺構のプランは不明瞭であったため，包含層の掘削を慎重に続けた．そして地表下2.0mの黄褐色砂質土まで下げた段階で再度遺構確認を行い，遺構のプランを確定した．そこで熊本市文化振興課へ連絡し，発掘調査への変更を行った（２月８日）．

発掘調査は２月８日・12日・13日の３日間行なった．２月８日は遺構確認，９日は遺構掘削と，遺構の平面測量を行った．竪穴状ないし土坑状の落ち込み１基，ピット８基，計９基の遺構を調査した．遺構の覆土は暗褐色土であった．包含層からは古代の遺物が少量ながら出土しており，遺構も古代に属するものと判断された．

５．（本荘中）動物資源研究開発研究施設本館重油地下タンク撤去に伴う立会調査（1242）

＜調査期間＞

2013年３月11日・14日

＜調査面積＞

29.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

オイルタンク抜き取りのためのオイルタンク周縁掘削と配管撤去掘削の立会調査である．

オイルタンク部はオイルタンク（3.2×6.0m）の周縁を0.5～1.0m幅で掘削した．最も深い所で地表下2.0mま

写真165　調査区近景（西より）

写真166　オイルタンク部掘削作業状況（東より）

写真167　オイルタンク部南壁包含層検出状況（北より）

で掘削が及んだ．オイルタンクは直径の半分程度掘り出した後，クレーンで吊り上げた．掘削は埋土内で済んだ．掘削の過程で南壁と西壁に包含層が露出した．包含層露出部分の埋土の下端は地表下0.7～1.2mで，それ以下に灰黄褐色土が存在した．また地表下1.5mで包含層（黒褐色土）が存在していた．包含層の厚さは0.35mほどある．更にその下は暗褐色土と黄褐色土の混じる土が厚さ0.1m確認でき，遺構の可能性が考えられた．遺物は出土しなかった．

写真168　オイルタンク部タンク除去状況（東より）

写真169　配管部地点中央部掘削終了状況（西より）

写真170　配管部地点北西部掘削終了状況（南より）

配管部はタンク西側と北側，北西側の３箇所からなっていた．タンク西側は道路脇の桝からクランク状に延びた配管の撤去で，幅0.5m，長さ14.9m，深さ0.2～0.3mまで掘削した．タンク北側は長方形の桝からクランク状に延びた配管を撤去するため，幅0.6m，長さ3.7m，深さ地表下0.4～0.6mまで掘削した．ともに埋土内の掘削で済んだ．タンク北西側は0.6×1.7mの範囲を地表下1.0mまで掘削した．掘削は埋土を掘削し，管が切断されていることを確認して終了した．

遺物・遺構は出土しなかった．

Ⅱ－5　本荘南地区（九品寺地区）（図８参照）

1．（本荘南）保健学科Ｅ棟東側地中埋設物撤去工事に伴う立会調査（1243）

＜調査期間＞

2013年３月21日・25日

＜調査面積＞

29㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

オイルタンク撤去工事に伴う立会調査である．オイルタンク部の掘削とそれに付随する配管部の掘削からなる．

タンク部の掘削は7.3×4.5mの範囲のアスファルトとその下の砕石（厚さ0.2m）を除去後，5.9×3.5mの範囲を掘削し，タンク周りを幅0.6～1.2m，深さ地表下2.4mまで掘削した．掘削はみな埋土であったが，西壁の一部で包含層が露出した．地表下0.5～1.1mまでは旧耕作土，その下1.3mまでは包含層（黒褐色土）が存在したが，包含層の下端は検出していない．タンクの下には２箇所基礎があった．基礎は深さ0.5m，その下にステコンが存在した．基礎は重機の爪でひっかけて取り出すので，問題はないと判断し，掘削を終了した．遺構・遺物は検出されなかった．

配管部は約7.3m×幅1.1mの範囲の砕石を除去し，合わせてタンク部分の壁際0.5×1.1mも掘削した．上位にある電気配線を掘り出し，脇にずらし，その後オイルタンクの管の検出面（地表下0.55～0.9m）まで下げた．管検出面では，配管の掘り方を除けば，埋土と旧耕作土が

写真171　調査区近景（南西より）

写真172　オイルタンク部掘削作業状況（東より）

写真173　オイルタンク部掘削終了状況（北東より）

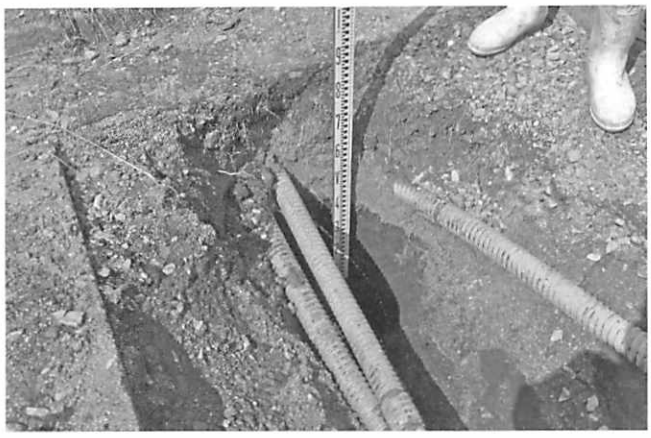
写真174　オイルタンク部タンク撤去状況（北より）

写真175　オイルタンク部西壁包含層検出状況（東より）

存在した．配管部分の最西端は管を切断するために，径0.4mの円形の範囲を地表下0.8mまで掘り下げたが，埋土内の掘削で済んだ．管は重機でひっかけて除去するため，掘削立会は終了とした．遺構・遺物は存在しなかった．

写真176　配管部掘削終了状況（南東より）

写真177　配管部西端掘削終了状況（南東より）



Ⅱ－6　大江地区（薬学部）（図9参照）

1．（大江）屋外給水管修理に伴う立会調査（1219）

＜調査期間＞

2012年9月12日・13日

＜調査面積＞

39.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

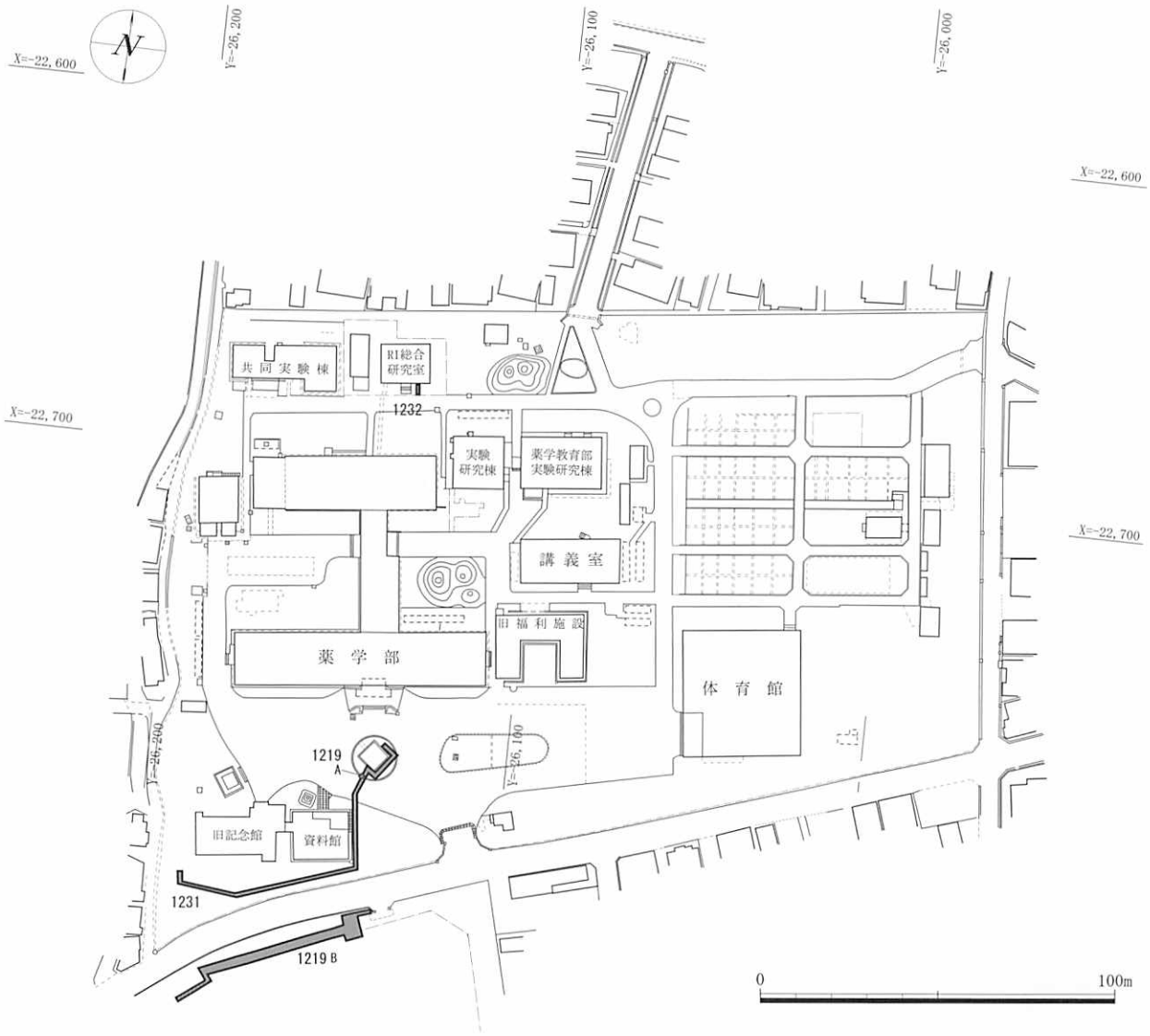
薬学部入門ゲート脇のA地点と，野球場北縁のB地点からなる．

A地点は埋設給水管のプラグ止め工事に伴うものであった．1.5×1.5mの範囲を届出の深さ1.0mまで掘削したが，アスファルトと砕石（地表下0.4m）と灰黄褐色土の旧耕作土しか検出されず，給水管プラグは見つからなかった．そこで熊本市文化振興課へ連絡し，更に下を調査する許可を得たのち，下位を掘削した．地表下1.1mまで掘削したところ，にぶい黄褐色ないし褐色土が堆積しており，その下には褐灰色土が存在することが確認された．褐灰色土上面で精査をしたが，遺構・遺物は検

写真178　A地点掘削風景（南西より）

写真179　A地点掘削終了状況（南西より）

図9　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）



出されなかった．その後調査区の北側を深さ1.5mまで下げた．一部地山（にぶい黄褐色ないし褐色土）が出現した．給水管のプラグはみつからなかった．褐灰色土は包含層である．遺物・遺構の検出もなかった．

写真180　B地点掘削風景（西より）

写真181　B地点掘削終了状況（西より）

B地点は埋設給水管工事に伴うものであった．総延長は61mである．西端は1.1×1.8mの範囲を深さ0.9mまで掘削した．既設管に取り付けるため，管下0.05mまで掘削した．掘削したのは埋土であった．中央部は幅0.6m，深さ0.45～0.5mを掘削したが，掘削は表土（暗褐色土）～埋土内であった．さらに東端部分を追加調査し，1.0×0.4mの範囲を深さ0.35m掘削したが，埋土内の掘削で終わった．遺物・遺構は検出されなかった．

2．（大江北）薬学部A棟南側池系統屋外給水管改修工事に伴う立会調査（1231）

＜調査期間＞

2013年1月28日・29日

＜調査面積＞

36.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

薬学部A棟南側にある池へ繋がる屋外給水管の改修工事に伴う立会調査である．

車道ゲート付近および池周りの配管工事と，宮本記念館・資料館周囲の配管工事からなっていた．

車道ゲート付近では幅0.5～0.75m，長さ7.2mの範囲を深さ0.7mまで掘削した．上部0.28～0.4mはアスファルト・砕石，下部0.3～0.42mは旧耕作土であった．池周りは幅0.3m・長さ19mの範囲を，深さ0.25m（一箇所0.5m）まで掘削したが，表土内の掘削で終わった．遺物・遺構は検出されなかった．

宮本記念館・資料館周囲の配管工事は記念館南西隅の水栓接続工事と，記念館・資料館周囲の配管設置工事か

写真182　調査区近景（南西より）

写真183　車道ゲート付近掘削終了状況（南西より）

写真184　宮本記念館池周り掘削状況（南西より）

写真185　宮本記念館南西隅掘削作業状況（西より）

写真186　宮本記念館南西隅掘削作業状況（西より）

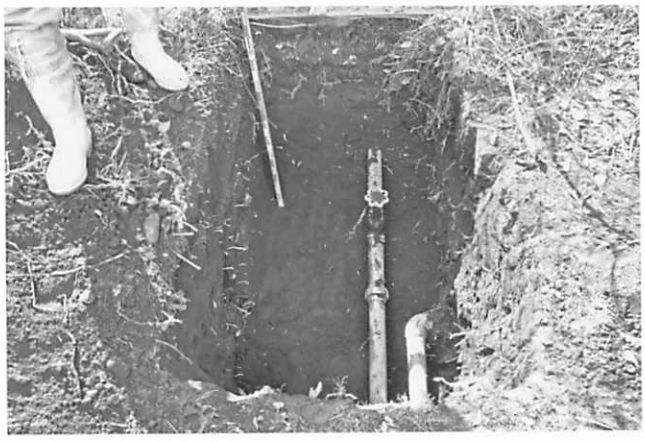
写真187　宮本記念館南側掘削終了状況（西より）

写真188　資料館東側掘削終了状況（南より）

写真189　調査区近景（南東より）

写真190　掘削状況（西より）

写真191　掘削終了状況（北西より）



らなっていた．宮本記念館南西隅の水栓接続部分は，1.3×0.8mの範囲を深さ1.0mまで掘削した．埋土内の掘削で済んだ．

宮本記念館・資料館周囲の配管は幅0.4m，長さ65.2mの規模を有し，深さ0.25～0.3mまで掘削した．表土・埋土内の掘削で終了した．遺物・遺構の検出はなかった．

3．（大江北）大江地区ＲＩ施設屋外給水弁取替工事に伴う立会調査（1232）

＜調査期間＞

2013年１月30日

＜調査面積＞

1.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

ＲＩ施設の南側において1.5×0.8mの範囲内を深さ1.0mまで掘削した．掘削したのは撹乱（埋土）と，旧耕作土であった．旧耕作土は地表下0.35m以下に存在し，地表下1.0mにおいて包含層に移行していた．今回の掘削は包含層上面を検出したにとどまり，包含層自体は掘削していない．遺構・遺物は確認されなかった．

Ⅱ－7　城東地区

1．（城東）教育学部附属幼稚園屋外埋設ガス配管改修工事に伴う立会調査（1215）

＜調査期間＞

2012年８月21日

＜調査面積＞

106.5㎡（35㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

附属幼稚園の通用門付近及び運動場北側において，ガス管を敷設する工事である．

運動場側では，北端と南側の足洗い場正面付近の２箇所にトレンチを設定して掘削を行った．北端のトレンチ（Tr1）では0.5×4mの範囲を地表下0.5mまで掘削したが埋土内であった．南側のトレンチ（Tr2）では0.5×2mの範囲を地表下0.6mまで掘削したが埋土内であった．運動場側では，この深さでは文化財への影響は無いと判断した．

写真192　トレンチ１作業風景（南西より）

写真193　トレンチ１掘削状況（南より）

通用門側では，敷地境界から建物までＬ字状に，幅0.6m，深さ0.8mで掘削を行ったが，埋土内であった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真194　通用門作業風景（北西より）

写真195　通用門西半部掘削状況（西より）

写真196　通用門東半部掘削状況（東より）

Ⅱ－8　京町地区　（図10参照）

1．（京町）附属小学校給食センター耐震二次診断調査業務に伴う立会調査（1202）

＜調査期間＞

2012年６月13日

＜調査面積＞

7.1㎡

＜調査員＞

松田光太郎.

＜調査概要・結果＞

給食センター西壁沿いの建物基礎の規模を，耐震診断の目的で調査するため，２箇所の掘削を実施した．給食センター南西角より10.7m北側の箇所を①地点，同南西角を②地点とした．

①地点は1.7×1.9mの範囲を，地表下1.6m の深さまで掘削し，建物基礎の規模（大きさとその厚さ）を確認した．掘削は埋土内で終了したが，建物基礎の西側では，掘削土直下に黄褐色のローム土が存在した．

②地点は給食センター南西角を中心に，2.2×2.2m のＬ字状の形に掘削したもので，地表下1.4m まで掘削し，建物基礎の規模を確認した．こちらも掘削は埋土内で収

写真197　①地点掘削終了状況（北西より）

写真198　②地点掘削終了状況（西より）

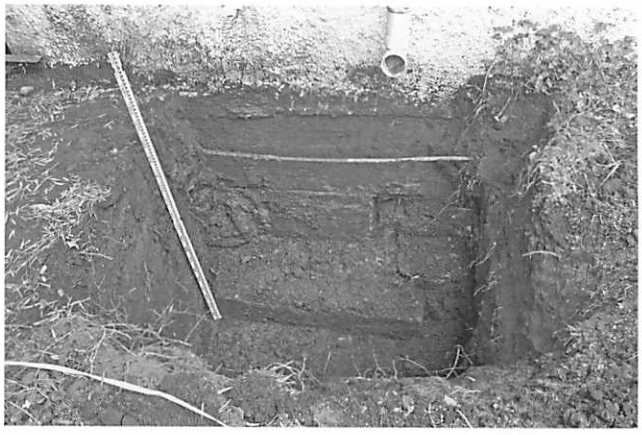
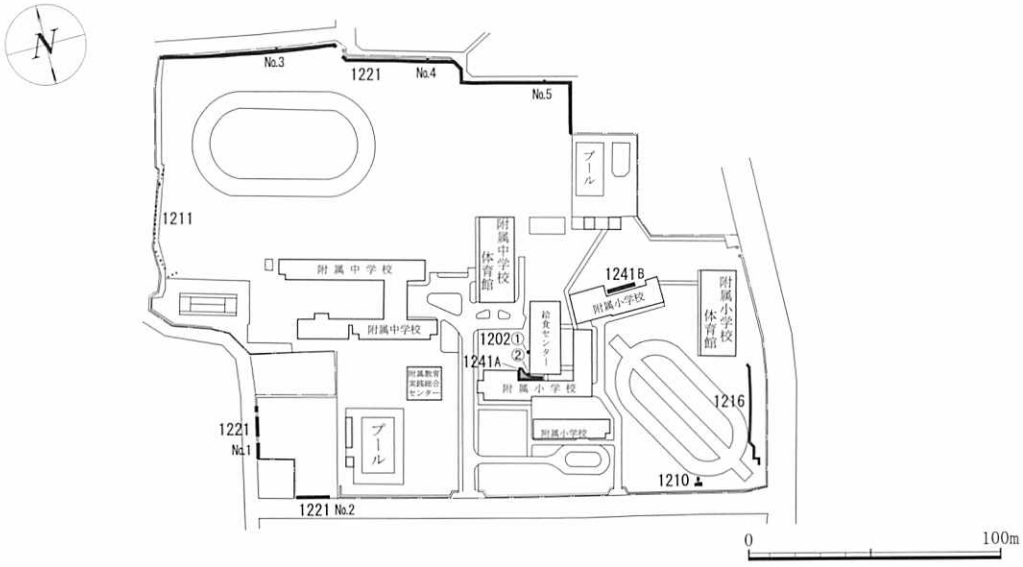


写真199　②地点掘削終了状況（西より）

図10　京町地区における調査地点配置図（1/3000）



まり，遺構・遺物共に出土しなかった．

2．（京町）附属小学校給水本管補修工事に伴う立会調査（1210）

＜調査期間＞

2012年７月17日

＜調査面積＞

3.3㎡

＜調査員＞

松田光太郎．

＜調査概要・結果＞

小学校東側の漏水を止めるための工事に伴う立会調査であった．小学校校庭南側の水道管の分岐部を探し，その分岐管を止栓するのが目的であった．校庭南側の水道管用の竪坑付近に，0.5mほど離れた２箇所の穴を掘削した．北側の地点は1.1×1.4mの範囲を深さ0.9mまで掘削した．南側の地点は西辺0.7m・東辺1.4m・南辺1.7mの台形の範囲を深さ1.05mまで掘削した．全て埋土内の掘削で収まった．遺物・遺構は検出されなかった．

写真200　北地点掘削終了状況（東より）

写真201　南地点掘削終了状況（西より）

写真202　全体終了状況（東より）

3．（京町）教育学部附属中学校西側フェンス改修工事に伴う立会調査（1211）

＜調査期間＞

2012年７月23日・24日

＜調査面積＞

33.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎．

＜調査概要・結果＞

新設するネットフェンスの基礎設置のため，長方形の範囲を25箇所掘削した．大きいものは長辺が1.5m，小さいものは0.7mであった．深さは0.7～0.9mあった．全て埋土または旧耕作土内での掘削で収まった．樹木抜根部分は２箇所掘削した．掘削は旧耕作土内で収まり，その上の樹木を伐採した．なお本地点は京町構内の西隅にあたり，その西側は崖になっている．台地縁辺は埋め土をして平坦にしているようであった．遺構・遺物は検出されなかった．

写真203　調査区北半近景（南より）

写真204　東側掘削部掘削終了状況（東より）

写真205　西側掘削部掘削終了状況（北より）

4．（京町）附属小学校体育館系統排水管改修工事に伴う立会調査（1216）

＜調査期間＞

2012年８月28日

＜調査面積＞

39.5㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

体育館近くの排水管から接続し，運動場の東側に側溝に沿った形で排水管を埋設する工事である．

６ｍを１スパンとしながら北側より掘削を開始した．北側では南へ約4ｍの間で，地表下0.7ｍで地山土を検出したが，精査の結果遺構は検出されなかった．これより南側では，大型建物の基礎が検出されるなど，全て埋土（撹乱）であった．遺構・遺物の検出はなかった．

写真206　作業風景（北西より）

写真207　遺構面検出状況（南より）

写真208　⑥⑦スパン掘削状況（南西より）

5．（京町）ブロック塀改修工事に伴う立会調査（1221）

＜調査期間＞

2012年９月19日

＜調査面積＞

171㎡（5.7㎡）

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

既存のコンクリート塀の基礎を利用し，その上に塀を作る工事に伴う立会調査である．塀は南西部と北部からなり，南西部が２箇所に分かれ，北部が曲がり角を境に５箇所の直線部分からなっていた．総延長距離が248mと長いため，南西部で各箇所に１個ずつ，北部では長い直線部分３箇所に掘削箇所を設け，埋蔵文化財の存在状況の確認を行った．掘削箇所は南西部では西よりNo.１・２，北部では西よりNo.３～５となっている．

No.１は1.1×1.1mの範囲を深さ2.0mまで掘削した．掘削は埋土内で収まったが，北側断面の地表下1.0m以下の所で黄褐色ローム（地山）を確認した．

No.２は1.9×0.9mの範囲を深さ1.0mまで掘削した．地表下には厚く埋土が堆積していたが，地表下0.85mで塀際幅0.3mに埋土，それ以北に黄褐色ローム（地山）の存在を確認した．塀際幅0.3m部分は1.0mまで下げた段階で基礎を検出した．掘削は埋土内で収まり，ローム面では遺構は確認されなかった．0.3m幅の基礎のすぐ北

写真209　No.１作業風景（南東より）

写真210　No.１掘削終了状況（東より）

写真211　No.２作業風景（東より）

写真212　No.２掘削終了状況（北より）

写真213　No.３作業風景（東より）

写真214　No.３掘削終了状況（南より）

写真215　No.４作業風景（東より）

写真216　No.４掘削終了状況（南より）

写真217　No.５作業風景（北東より）

側には地山が残っているが，工事は基礎上の幅0.3mで行えるとのことであったので（届出の掘削幅は0.6m），掘削箇所およびそれ以外の部分について，塀際の基礎上に限定して慎重に工事を進めるように指示した．

No.３は1.3×0.8mの範囲を深さ0.7mまで掘削した．北隅で既存の基礎が確認された深度で掘削を終了したが，掘削は埋土内で収まった．

No.４は1.0×1.0mの範囲を掘削した．北隅で既存の基礎が確認された地表下0.7mまで掘削したが，掘削は埋

写真218　No.５掘削終了状況（南より）

土内であった．

No.５は1.1×1.0mの範囲を北隅で既存の基礎が確認された地表下0.6mまで掘削した．掘削は埋土内で終始した．

北部は塀際0.12～0.3m幅に基礎があり，その脇は埋土であったので，掘削は埋蔵文化財に影響しないと判断し，慎重に工事を進めるように指示した上，立会を終了した．なお南西部・北部とも遺構・遺物は確認されなかった．

６．（京町）教育学部附属小学校校舎Ａ・Ｂ棟空気調和設備取設工事に伴う立会調査（1241）

＜調査期間＞

2013年３月７日

＜調査面積＞

27.2㎡

＜調査員＞

松田光太郎・多賀晴司．

＜調査概要・結果＞

小学校校舎Ａ棟北側とＢ棟北側の２箇所からなる．両地点とも，エアコン室外機基礎新設部分（深さ0.2～0.3

写真219　Ａ棟地点近景（北西より）

写真220　A棟地点掘削作業状況（西より）

写真221　A棟地点西部桝掘削終了状況（南東より）

写真222　A棟地点北西部掘削終了状況（東より）

m）と配管移設掘削部分からなっていた．

A棟北側（A棟地点）では，東西に並ぶ2つの既設桝の間を繋ぐライン以南の7.3×0.4mの範囲（エアコン設置部分）を地表下0.2～0.3m掘り下げたが，全て埋土内の掘削であった．

次に2箇所の桝の間をつなぐヒューム管を中心に5.4×0.6（ないし0.7）mの範囲を地表下0.9mまで掘削しヒューム管を引き抜いた．さらに新設配管用に2個の既設桝を繋ぐライン以北（配管移設掘削部分）を南北1.6

写真　223　B棟地点近景（北西より）

写真224　B棟地点掘削終了状況（北より）

m・東西5.4mの直角三角形に地表下0.9mまで掘削した．これらの掘削は全て埋土内で収まった．

また西側の排水桝を撤去するため，1.6×1.2mの範囲を掘削し，排水桝（西部桝）を撤去した．その後，新設配管は，残っている既存のヒューム管に繋ぐように工事が変更され，既存配管への接続部分0.9×1.0mの範囲を掘削した．掘削深度が届出の深度0.9mより深くなるため，熊本市文化振興課へ変更申請をした後，当該範囲（北西部）を地表下1.1mまで掘り下げた．地表下1.0mで灰白粘土（埋土）が出現し，地表下1.1mで明褐色ローム層（地山）上面を検出した．掘削は埋土内で収まった．遺物・遺構は発見されなかった．

なおエアコン室外機新設部分は校舎から北側に1～3m掘削するものであったが，掘削深度は0.3mと浅く，埋蔵文化財に影響はないと判断し，慎重に工事を進めるように指示して立会を終了した．

B棟北側（B棟地点）では，長方形の校舎に平行して幅1.1m，長さ8.0mの範囲を掘削した．掘削箇所は，校舎に近い南側からエアコン室外機基礎新設部（幅0.7m・長さ8.0m，深さ地表下0.15m），旧配管撤去部（幅0.1m・長さ8.0m，深さ地表下0.15m），新設配管部（幅0.3m・

長さ8.0m，深さ地表下0.40m）に分けられる．掘削した土は黄褐色ローム土・暗褐色土ブロック・礫などが混ざる埋土であった．旧配管撤去部は掘削後，塩ビ管を手で引き抜いて終了した．遺物・遺構は発見されなかった．

跋　文

埋蔵文化財調査センター初年度の実質の活動は，新任の松田光太郎准教授を筆頭に，大坪志子助教，石丸恵利子技術補佐員，村田知聖事務補佐員の４人が担った．松田准教授は財団法人かながわ考古学財団調査研究部で20年近く発掘調査に携わられた縄文時代の研究者である．この度初めて九州に来られ，中九州の火山灰土と白川の堆積土，夏の暑さ，そして現場の肥後弁に慣れるまでご苦労があったことと思う．これを大坪・石丸両氏がよく支えてくれた．９月から半年間は，熊本県の発掘調査現場で活躍されていた多賀晴司さんが技術補佐員として入ってくださった．学長裁量経費による報告書作成作業は，発掘調査に多くの時間を裂かねばならなかった影響で難渋したが，大坪助教と石丸技術補佐員のガンバリで完成した．皆の労をねぎらいたい．

埋蔵文化財調査室からセンターへの改組をまたいで，発掘調査の後方支援をしてきた村田知聖事務補佐員が，春を限りに退職された．周到な配慮でセンターの業務を推進した功績は大きい．５年間，まことにご苦労さまでした．

石丸技術補佐員は，担当された発掘調査を完遂し，大部の報告書を完成して３月に任期を満了された．臨床医学教育研究センターの近代遺跡が明らかにした庶民生活の姿は貴重である．深甚なる謝意を表したい．

さて，熊本大学は文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業に採択され，男女共同参画への取り組みを推進中という．昨年のわがセンターの状況をみると，現場で指揮をとる発掘調査を主要な業務とする者の75％は女性である．これほど女性の活躍する職場は本学でトップクラスであろう．松田准教授には初めての九州でご苦労も多いことと察するが，この職場の舵取りをどうかよろしくお願いしたい．

新たな組織とはいえ，センターには激動の１年であった．

2014年１月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

Summary

In 1985, Kumamoto University planed a reconstruction of campus. But it was known that campus was designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological operation office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt. In October 2011, the office was reorganized into the Research Center for Buried Cultural Properties, and this center has investigated underground cultural properties.

We have two main campus sites at other areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area) , faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area) ,and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt.Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level 18 ~ 25m) formed by the Shirakawa River. The site is regarded as an ancient station "Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (central ,south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level 12 ~ 13m) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following:6 excavations, 44 presence investigations. In the current year, investigation spots were concentrated in the Kurokamimachi site(north and south area), the Honjo site(north and central area). The main results are the following.

Although only presence investigations are being conducted in the Kurokamimachi site,a feature was found at the 1230,1228 excavation spot.

In the Honjo site (north area) , we excavated the following three excavation spots.

At the 1234 excavation spot, three rectangular earthen pits were discovered under 0.9m below ground. These earthen pits probably represented burials. At the 1207 excavation spot, two ancient pits were discovered. Pit dwellings and a ditch were also found. At the 1226 excavation spot, a human-made flat feature was located 1.1m below under ground.

In the Honjo site (central area) , we excavated the following three excavation spots.

At the 1205 excavation spot, a ditch with a breadth of 4.2 m, was discovered approximately 1.8m below ground. From the northeast, the ditch inclined gently the southwest . It was thought that this ditch was made in the early stage of the modern era, based on finds from the excavation.

Excavation spot 1223 is located north of spot 1205 excavation spot. A total of 29 pit dwellings between the late Kofun period and the early Heian period (9th century) were discovered, along with a large posthole-type building made in the Heian period

At the 1233 excavation spot is located in the southwest part of the Honjo area (central area) .The layer containing cultural remains existed in the surrounding of the foundation of the old boiler house's chimney.Ancient features were also discovered there.

At the 1223-1233 excavation spot, features were discovered 1.2m below under ground. Therefore in the Honjo area features often remain between the foundation of a building . In the presence investigation in connection with development construction, we plan to pay and carry out cautions on such a fact in the future.

구마모토 대학은 건물의 노후화로, 1985 년부터 재건축 계획을 세우고 있었으나, 대학 구내지역이 유적 포함지로 지정되어 있다는 사실을 알게 되었다. 따라서, 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 하기위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994 년 부터 조사를 해 왔다.2011 년 10 월 조사실은 매장 문화재 조사 센터로 바뀌어서, 조사를 해 오고 있다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부・이학부 (남지구) , 교육학부・법학부・문학부 (북지구) 가 자리한 구로카미 (黒髪) 캠퍼스로, 구로카미마치 (黒髪町) 유적군의 일부에 해당한다. 이 유적은 다츠타산 (立田山) (표고 151.6m) 기슭의 저위 하안단구 (표고 18 ~ 25m) 위에 위치하며, 고대 고카이 (蚕養) 의 역전으로 추정되고 있다. 또 하나는 의학부・의료단기대학 (중, 남지구) , 대학부속병원 (북지구) 이 자리한 혼조 (本荘) 캠퍼스이다. 이 지구는 혼조 (本庄) 유적의 일부이며, 구로카미마치 유적군과 마찬가지로 시라카와 (白川) 강의 저위 하안단구 (표고 12 ~ 13m) 위에 위치한다. 혼조유적은 구로카미마치 유적군으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다. 이 유적과 근접한 곳에 오오에 (大江) 유적군과 신야시키 (新屋敷) 유적 등 큰 고대 취락 유적이 있다.

2012 년도에 실시된 조사 건수는, 발굴 조사 6 건, 입회 조사 44 건이었다. 본년도 조사는 구로카미 캠퍼스 북지구와 남지구, 혼조 캠퍼스 북지구와 중지구에 집중했다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

구로카미 지구에서는 입회 조사만 실시되었는데, 구로카미마치 유적군 1230 조사 지점과 1228 조사 지점에서, 유구의 존재를 확인했다.

혼조 북 지구에서는 다음 3 지점의 발굴 조사를 실시했다.

1234 조사지점에서는 지표밑 0.9m 에서, 사각형의 흙구덩이 3 기를 확인했다. 이 흙구덩이는 묘혈 (墓壙) 일 가능성이 높다고 한다.1207 조사 지점에서는 고대의 구멍 2 기를 조사했다. 또 같은 시대의 수혈주거지나 도랑도 확인되었다. 1226 조사 지점에서는 지표밑 1.1m 에서 사람이 만든 것으로 생각되는 평탄면을 확인했다.

혼조 (本荘) 중 지구에서는 다음 3 지점를 발굴했다.

1205 조사 지점에서는, 지표밑 1.8m 부근에서, 최대 폭 4.2m 의 도랑을 검출했다. 도랑은 북동에서 남서를 향해서 완만하게 경사져 있었다. 출토 유물 등으로 보마 도랑은 근세 초기의 소산물로 생각되었다.

1223 조사 지점은 1205 조사 지점의 북쪽에 서로 접하여 위치하고 있다. 고분 (古墳) 시대 후기부터 헤이안 (平安) 시대 초기 (9 세기) 의 수혈주거지 29 건과, 헤이안 시대 (9 세기 후반 ~10 세기) 의 굴립주 (掘立柱) 건물 흔적를 검출했다. 지금까지의 조사에 의하면, 혼조 유적에 있어서는, 혼조 북 지구의 유구 밀도가 남 지구보다 높았지만, 혼조 중 지구에 있어서도 유구의 밀도가 높은 장소 [촌락의 중심적인 장소] 가 존재하는 것이확실해 졌다.

1233 조사 지점은 혼조 중 지구의 남서부에 위치한다. 구 보일러실의 굴뚝 기초 주변에 유물포함층이 남아있고, 고대 유구의 존재도 확인했다.

1223・1233 조사 지점에 있어서는, 유구는 지표밑 1.2m 부근에서 검출되었다. 따라서 혼조 지구에서는 건물의 기초 사이에 유구가 남아있는 경우가 많다. 개발 공사에 동반하는 입회 조사는 이런 사실에 주의해서 실시해갈 생각이다.

付篇１　2012年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H23.9.22～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務を行う．

(1)　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．

(2)　出土した埋蔵文化財の整理，保管及び保存に関すること．

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．

(4)　その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

(1)　センター長

(2)　専任教員

(3)　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長が行う．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長が行う．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

(1)　センター長

(2)　センターの専任教員

(3)　文学部、教育学部、法学部及び医学部附属病院から選出された教授又は准教授　各１人

(4)　大学院自然科学研究科及び大学院生命科学研究部から選出された教授又は准教授　各２人

(5)　運営基盤管理部の施設担当部長

(6)　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

５　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．

（委員会の審議事項）

第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則

（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く.）を審議する.
(1) センターの業務に関すること.
(2) センター長候補者の推薦に関すること.
(3) 施設及び予算に関すること.
(4) その他センターの管理運営に関すること.
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる.
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる.
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する.
（議事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない.
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる.
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる.
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する.
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める.

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する.
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する.
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考されたものとみなす.
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする.
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする.

2．2012年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
＜技術補佐員＞	（2011年５月～2013年３月）	石丸　恵利子
	（2012年９月～2013年３月）	多賀　晴司
＜事務補佐員＞		村田　知聖
＜室内作業員＞	（2012年６月～2013年３月）	江口　路
		鬼塚　美枝
		小山　正子
		首藤　優子
		末吉　美紀
		増井　弘子
		山嵜　早苗
	（2012年７月～2013年３月）	井上　裕美
	（2012年10月～2013年３月）	入江　由真

		與嶺友紀也
	（2013年３月）	甲斐　郁
		柴田　亮

２　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2011.10.1～2013.3.31）
委員	杉井　　健	（文学部准教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	黨　　武彦	（教育学部教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	大澤　博明	（法学部教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	安仁屋　勝	（大学院自然科学研究科教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	宇宿功市郎	（大学院生命科学研究部教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	黒崎　博雅	（大学院生命科学研究部准教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	平井　俊範	（医学部附属病院准教授）	（2011.10.1～2013.3.31）
	黒木　　浩	（運営基盤管理部施設担当部長）	（2012.4.1～2013.3.31）
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2011.10.1～2013.3.31）
	松田光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2012.4.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2011.10.1～）

審議事項

2012年４月19日　議題

１）平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について

２）「発掘調査報告書」刊行スケジュールについて

３）平成24年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について

報告

１）平成23年度埋蔵文化財発掘調査結果について

２）平成23年度埋蔵文化財調査センター運営費実績について

３）その他

2012年10月31日　議題

１）埋蔵文化財調査センター運営委員会の見直しについて

2013年３月１日　議題

１）埋蔵文化財調査センター長候補者の選考方法について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2012年度調査・研究活動記録

【調査員】

大坪志子

・科学研究費補助金若手（Ａ）平成21年～24年度『石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域間交流と農耕化への変遷過程の研究』研究代表者

・2012年「第10節 縄文時代石製装身具の科学分析」『北井門遺跡２次調査』公益財団法人 愛媛県埋蔵文化財センター，pp.531-538.

・2012年「西南戦争遺跡出土遺物の蛍光Ｘ線分析」『玉東町西南戦争遺跡調査総合報告書』玉東町文化財調査報第８集，玉東町教育委員会，pp.157-164.

・2012年　東アジア国際ミニシンポジウム「弥生の人々の祈りとその源流」壱岐市立一支国博物館

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう 19
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 19
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	19
編著者名	木下尚子・松田光太郎・大坪志子・多賀晴司
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL. 096-342-3832 FAX. 096-342-3832
発行年月日	2014年3月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ほんじょう 本庄遺跡 （１２０５地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 39″	130° 42′ 45″	20120625 ～ 20120719	756㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１２０７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 42″	130° 42′ 42″	20120629	100㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１２２３地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 39″	130° 42′ 44″	20121001 ～ 20121218	1059㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１２２６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 48″	130° 42′ 47″	20121113	2.2㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１２３３地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 37″	130° 42′ 44″	20130208 ～ 20130213	9.3㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１２３４地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 49′ 51″	130° 43′ 46″	20130221 ～ 20130222	24.1㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほんじょう 本庄遺跡 （１２０５地点）	集落址	古代・近世	溝・ピット	土師器・須恵器・陶磁器・動物骨	
ほんじょう 本庄遺跡 （１２０７地点）	集落址	古代	ピット	遺物なし	
ほんじょう 本庄遺跡 （１２２３地点）	集落址	古墳・古代・近世	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・ピット	縄文土器・石器・土師器・須恵器・銅製品・陶磁器・土製品・動物骨	
ほんじょう 本庄遺跡 （１２２６地点）	集落址			遺物なし	
ほんじょう 本庄遺跡 （１２３３地点）	集落址	古代	ピット	土師器・須恵器	
ほんじょう 本庄遺跡 （１２３４地点）	集落址・墓地	古代・近代	土坑（墓壙）	土師器・須恵器・磁器	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報19
—2012年度—

平成26年３月28日　印刷
平成26年３月28日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2014